

# 鮭川西出B遺跡(第1次)発掘調査報告

1998. 3

三重県埋蔵文化財センター

## 序

埋蔵文化財は、祖先が残した貴重な文化遺産であり、現代に生きる私たちも責務として、これらを積極的に保護し後世に伝えていくとともに更なる文化の向上のための礎とすべきものであります。しかし、一方では地域経済の活性化あるいは住民生活の安全や向上のために、各種の公共事業も必要と考えられます。

三重県埋蔵文化財センターでは、文化財行政の一環として、各開発部局の事業を照会し、事業予定地域内の文化財の確認とその保護に努めてまいりました。しかし、どうしても現状保存の困難な部分については、発掘調査を実施し、記録の保存を図ってきているところがあります。

ここに紹介します度会郡度会町所在の鮪川西出B遺跡は、県営ほ場整備事業および県営ふるさと農道整備事業の施工に先立つ事前協議の結果、発掘調査を実施し、記録保存されたものです。この発掘調査の成果が、消滅した遺跡に代わり、郷土の歴史・文化を伝えるものとして活用されていくことを切に望みます。

調査にあたっては、県農林水産部並びに伊勢農林水産事務所、度会町教育委員会、度会町産業課をはじめ、地元の方々に多方面でのご助力をいただきました。心より感謝申し上げます。

平成10年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 奥村 敏夫

# 例 言

1 本書は、下記の遺跡の発掘調査報告書である。

鯉川西出B遺跡（度会郡度会町鯉川字西出所在）

2 本調査は、平成9年度県営ほ場整備事業（中川地区）および同県営ふるさと農道整備事業（度会北部地区）に伴って実施したものである。調査にかかる費用は、その一部を国庫補助金を受け三重県教育委員会が、他を三重県農林水産部と地元市町村が負担した。

3 調査は、平成9年度に行った。調査の体制は以下の通りである。

調査主体 三重県教育委員会

調査担当 三重県埋蔵文化財センター 調査第一課

技師 西村美幸

主事 山本義浩

主事 奥野 実

整理担当 三重県埋蔵文化財センター 調査第一課・管理指導課

4 調査にあたっては、度会町在住の各位、度会町教育委員会、度会町産業課および県農林水産部農地整備課、農村振興課、伊勢農林水産事務所にご協力をいただいた。

5 執筆はⅡ章を山本が、Ⅰ・Ⅲ～Ⅴ章を西村が担当し、遺物写真撮影及び全体の編集は西村が行った。

6 当地域の磁北は真北に対し $6^{\circ}20'$ 西偏している。（平成6年度、国土地理院）当報告書では、磁北で測量したものを真北に換算して用いた。

7 写真図版の遺物番号は実測図の番号と対応している。写真図版は特に断りのない限り縮尺不同である。

8 当報告書での用語は、以下のとおり統一した。

つき・・・「坏」があるが、「杯」を用いた。

わん・・・「碗」・「碗」があるが、「碗」を用いた。

9 当報告書で用いた遺構番号は、通番となっている。（以下に言う pitを除く）また、番号の頭には、各遺構の性格により以下の略記号を付けた。

S B：掘立柱建物    S D：溝    S K：土坑

S E：井戸    pit：柱穴、小穴

10 当報告書で報告した記録及び出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターに保管している。

11 スキャニングによるデータ取り込みのため若干のひずみが生じています。各図の縮尺率は、スケールバーを参照ください。

# 本文目次

I 前 言	(西村) … 1
II 位置と歴史的環境	(山本) … 1
III 調査の成果～層位と遺構～	(西村) … 3
IV 調査の成果～遺物～	(西村) … 10
V 結 語	(西村) … 20

# 挿図目次

第1図 遺跡位置図	1
第2図 遺跡地形図	2
第3図 調査区位置図	3
第4図 遺構平面図・土層断面図	4
第5図 SK3 平面・断面図	5
第6図 SB41・42、SK15 平面・断面図	6
第7図 SK20・21、SK32、SK16 平面・断面図	7
第8図 SK12、SK25・SD29 断面図、SE22、SE34 断面略図 B地区下層断面図	8
第9～13図 出土遺物実測図(1)～(5)	12～16

# 表目次

第1表 遺構観察表	9
第2表 旧石器時代出土遺物一覧表	9
第3表 出土遺物観察表(1)～(3)	17～19

# 図版目次

図版1 SK3、SE34遺物出土状況、SE22、SD5石の集中地点、SB41・42、SK15、SK20・21
図版2 鎌倉時代の遺物、室町時代中葉以降の遺物
図版3 室町時代中葉以降の遺物

# I 前 言

## 1 調査の契機

鮎川西出B遺跡は、県営ほ場整備事業（中川地区）および県営ふるさと農道整備事業（度会北部地区）に係る分布調査で平成6年に確認され、平成9年1月29日に試掘調査を行った結果、溝・ピット等の遺構および中世土師器・鉄釘等の遺物が確認された。担当部局と協議の結果、保存不可能な部分4,200㎡について平成9・10年度に調査を行うことになった。試掘段階までは、里A遺跡と呼称されていたが、字名が誤っている事がわかったため、本調査にあたって鮎川西出B遺跡と改称した。遺跡番号は度会町（470-91）である。

## 2 調査の経過

### (1) 調査経過概要

本年度は、東側の2,200㎡、について、平成9年5月6日から7月31日にかけて本調査を行った。

調査に参加して頂いたのは度会町在住の方々である。ここに御名前を記し御礼申し上げたい。

大西一枝、大西春子、北村昭輔、京橋初代、京橋六郎、世古あさ子、世古幸子、世古たけ、世古三枝、永木茂子、中世古貞治、馬瀬章、馬瀬妙子、松井サワ、松井貞子、南弘、森文子、森本たきよ、森本平生（五十音順、敬称略）

### (2) 文化財保護法等にかかる諸通知

文化財保護法（以下、「法」）等にかかる諸通知は、以下により文化庁長官あてに行っている。

・法第57条の3第1項（文化庁長官あて）

平成9年4月28日付け農地第78-1号

平成9年5月1日付け農振第920号

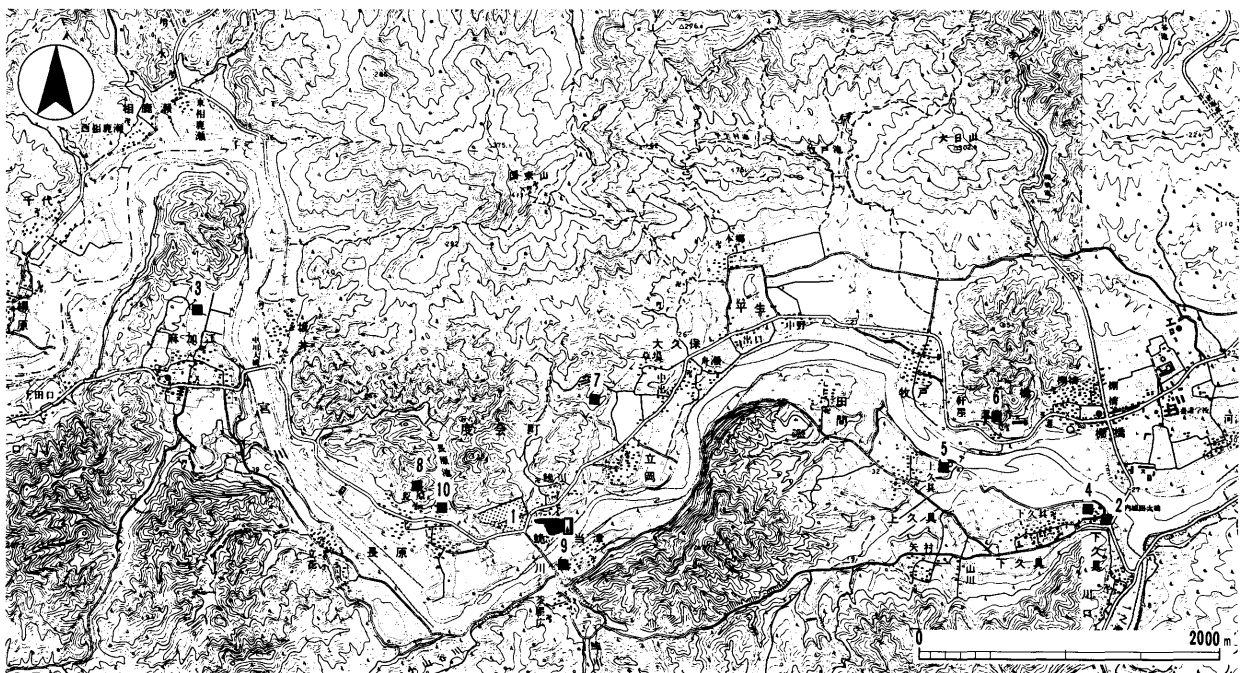
・法第98条の2第1項（文化庁長官あて）

平成9年5月26日付け教文第1088号県教育長通知

・遺失物法にかかる文化財発見・認定通知（松阪警察署長あて）

平成9年9月17日付け教文第6-74号（県教育長通知）

# II 位置と歴史的環境



第1図 遺跡位置図（1：50,000）（国土地理院1：25,000国東山・伊勢より）

## 1 地理的環境

鮠川西出B遺跡(1)は、行政的には度会郡度会町鮠川字西出にあり、宮川中流左岸の河岸段丘上に位置する。宮川は大台山系の多雨地域を源流とし、途中多くの支流を集めながら北東流し伊勢湾に注ぐ全長90km余りの河川である。

この宮川の中流域には河岸段丘が発達している。河岸段丘は上部の平坦な段丘面と前面の段丘崖からなっている。度会町の宮川両岸ではこのような地形が連続しており、段丘面は平地に乏しい山間に集落や交通路の場所を提供している。また、乏水性が大きいため、畑地が多く、度会茶を産みだしている。

## 2 歴史的環境

度会町の遺跡の大半は縄文時代と中世の遺跡である。当町や多気郡大台町にみられる宮川の段丘面では、旧石器時代から縄文時代の遺跡が多く見られる。大台町の出張遺跡では、1976・77年に発掘調査が行われ、ナイフ形石器などが多量に出土し、中核的な遺跡として位置づけられている<sup>①</sup>。また、下久具の山崎遺跡(2)では昨年度発掘調査が行われ、旧石器時代～縄文時代初頭の石器が出土した。このほか皇學館大学考古学研究会などの精力的な調査により、一之瀬川流域を中心に旧石器時代遺物の散布が確認されている<sup>②</sup>。縄文時代の遺跡には、押形文土器が出土する麻加江の栢垣内遺跡(3)〔早期初頭〕、下久具

の万野遺跡(4)〔早期～中期〕、上久具の森添遺跡(5)〔中期～晩期〕などがある。

度会町内の葛原、大野木、棚橋、牧戸には、9世紀末から13世紀に神宮祭主の大中臣氏によって開発された大橋御園が広がっていた。中世には門跡寺院である醍醐寺三寶院領となっている。棚橋の蓮華寺(後に法楽寺と改称)(6)は、神宮祭主の大中臣氏の氏寺として建立され、鎌倉時代以降寺内に殿舎を建てて、公家・武家の祈禱所として栄えている。南北朝期、南勢地方は南朝の勢力下にあり、その要衝となっていたのが度会町南部にあった一之瀬城であった。これに対し、法楽寺は醍醐寺三寶院との関係から北朝方の拠点となり、南北朝の騒乱を繰り広げている。鮠川西出B遺跡の周囲には、立岡城(7)長原城(8)、南鮠川城(9)などの中世の城跡がある。また、昨年度発掘調査を行った野田遺跡(10)は長原城の麓にあり、中世末～近世にかけての掘立柱建物などを確認している。

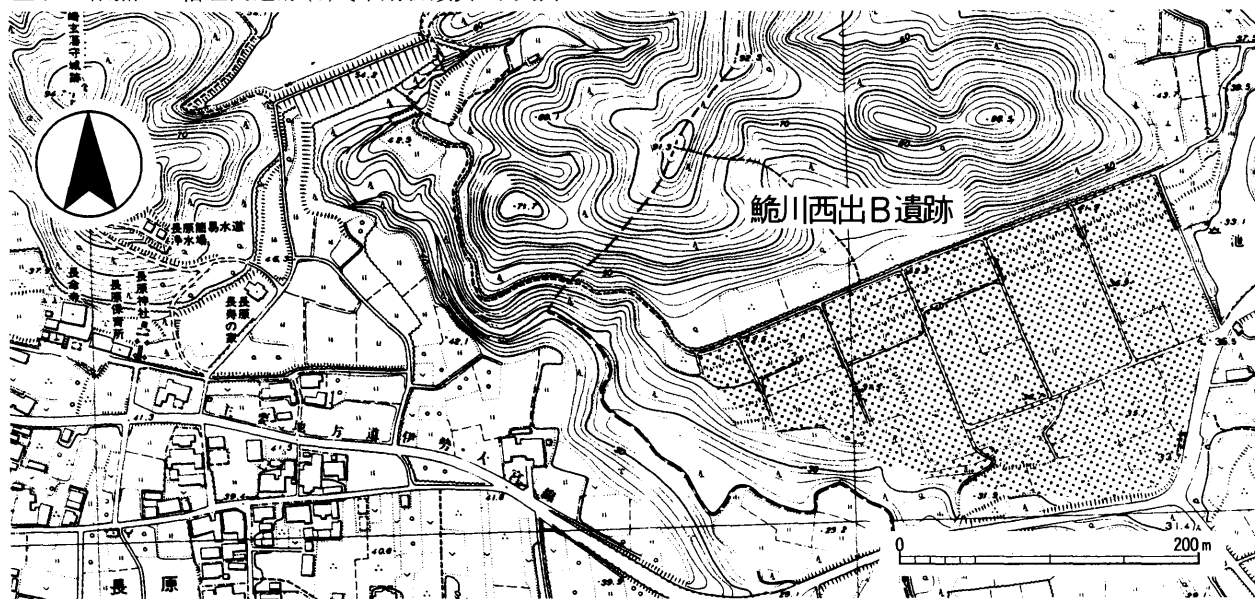
近世、度会町は藤堂氏玉丸領から元和5(1620)年の領地替えにより紀州藩田丸領となり近代に及んでいる。

〔註〕

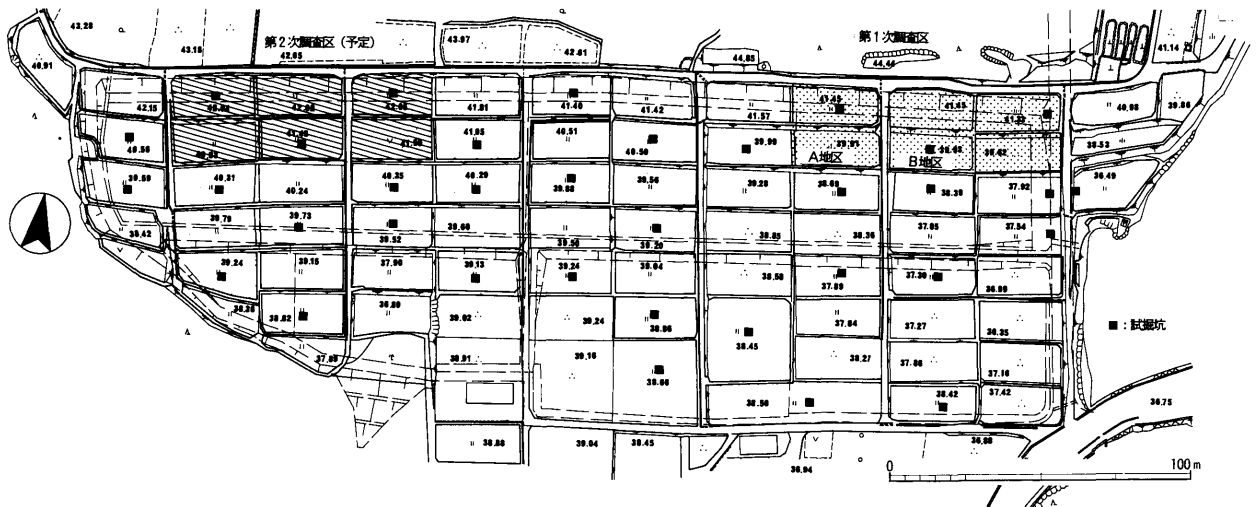
- ① 三ツ木貞夫・森田尚宏ほか「出張遺跡発掘調査報告書」(1979年大台町出張遺跡調査会)
- ② 皇學館大学考古学研究会「一之瀬川流域の遺跡」(1997年、皇學館大学考古学研究会)

〔参考文献〕

- ・度会町史編纂委員会「第二編 沿革」(『度会町史』1981年、度会町役場)



第2図 遺跡地形図(1:5,000)



第3図 調査区位置図(1:2,500)

### Ⅲ 調査の成果～層位と遺構～

#### 1 調査の方法

##### (1) 調査区の設定と基準点の設定

今年度は遺跡東端の2,200㎡の調査を行った。調査区の現況は、もと傾斜地であった所に小区画のほ場整備が行われた水田で、棚田状の上下2段×3列の6筆分の調査を行った。間に農業用道路があったため道路の西をA地区、東をB地区とした。

調査の基準点には任意の点を用いたが、第2次調査時に第1次調査との位置的な関連を知るために調査区の基準点2点の延長線上にポイントを残した。

##### (2) 小地区の設定

各調査区内は、設定された基準点をもとに4m方眼を切り、北西からA1～として小地区を設定した。

##### (3) 下層調査の方法

上層調査中に旧石器の剥片が出土した。このため剥片出土地点を中心に、小地区をさらに4分割した地区を設定し、小さな道具による掘削を行った。

#### 2 基本層序

調査区は、丘陵端部の傾斜地で、現状では段差のある水田になっている。多量の盛土が行われており、耕作土・包含層を除去した結果、上・下で約3mの比高差のある傾斜地を検出した。調査区の基本層序は、上から灰褐色系の耕作土、礫を混入する褐色系砂質土の客土、暗褐色系粘質土、黄褐色系粘質土、

礫を混入する黄灰色砂質土となっている。A地区の遺構検出面は北端では黄灰色砂質土、中央から南では黄褐色系粘質土とした。B地区では中央から南の部分では重機による表土除去中に暗褐色系粘質土中から遺構が切り込んでいる状況が確認されたため、この層を少し削り込み、遺構検出面とした。

#### 3 上層の調査(遺構)

調査の結果、鎌倉時代から室町時代末までの遺構・遺物を確認した。以下に、各遺構についての特徴を述べるが、数値等は遺構観察表を参照されたい。なお、遺構実測図中の遺物に付す番号は遺物実測図の番号と同一である。

##### (1) 鎌倉時代の遺構

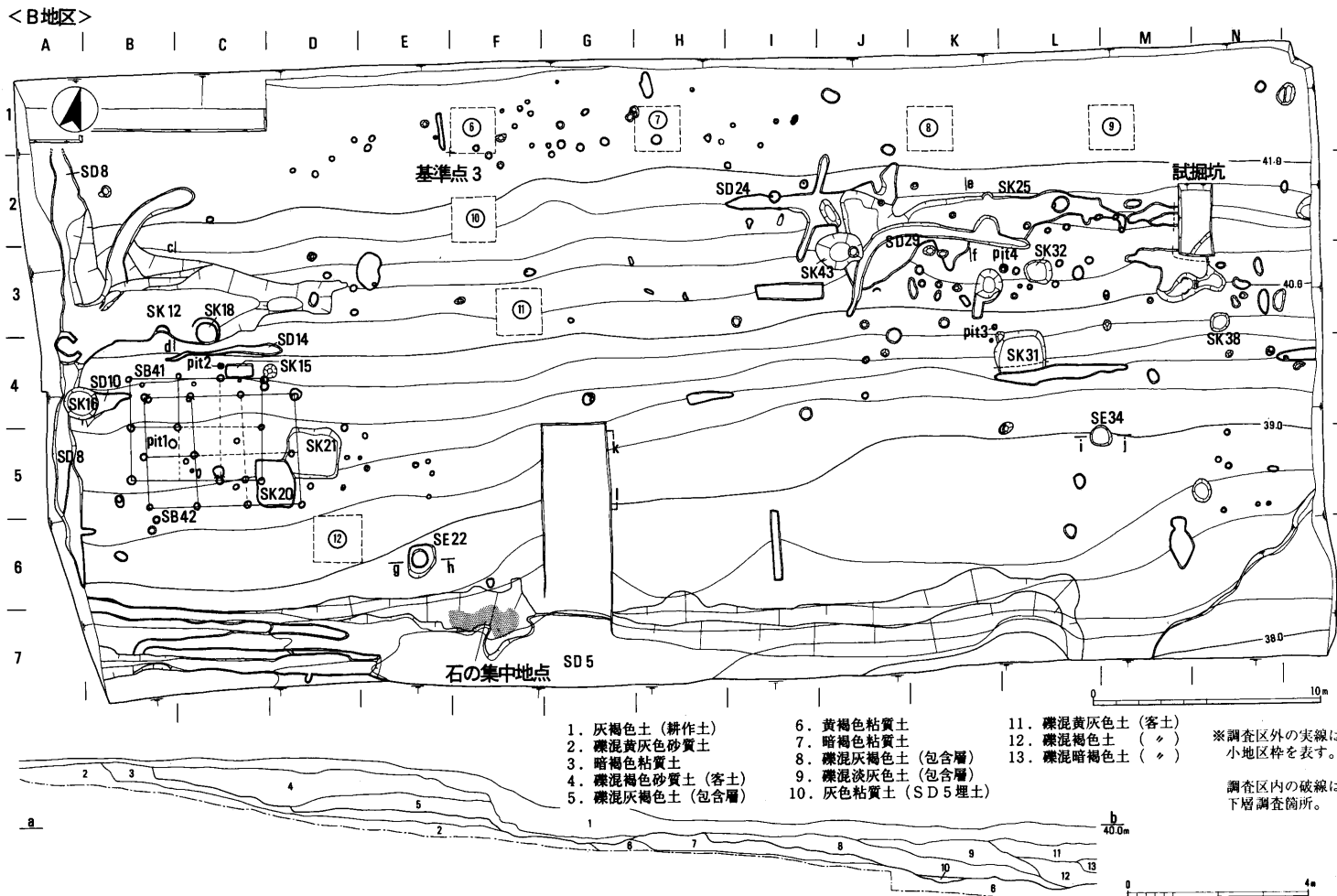
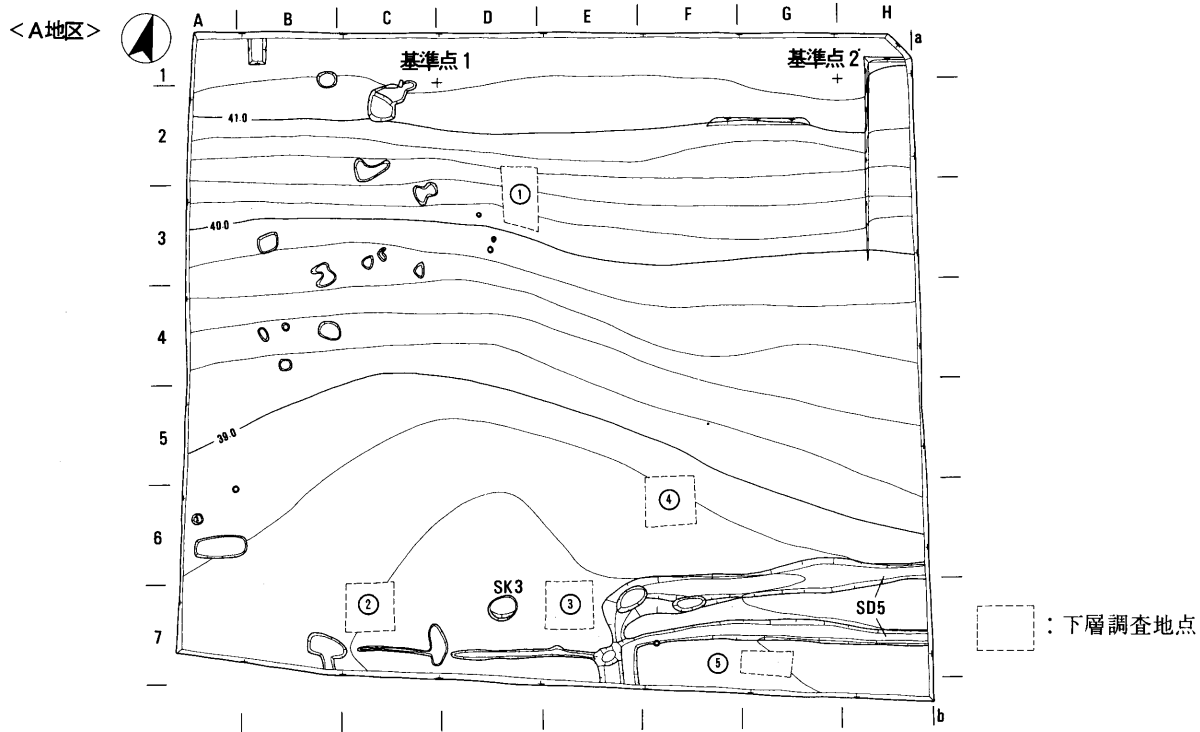
SK3(第5図) A地区南端中央で検出した。楕円形の土坑で、断面は隅丸方形である。底部から20～30cm大の石が集中して出土した。掘削中から常に水が湧いており、井戸として利用されていたのであろうか。石は意図的に組まれた形跡がなく、廃絶時に投棄されたものと考えられる。

##### (2) 室町時代中葉以降の遺構

###### A. 掘立柱建物

SB41(第6図) B地区西端中央部で検出した2間×3間の総柱建物で、E-16°-Nの東西棟である。ピットから土師器鍋・皿、縁釉小皿が出土した。

SB42(第6図) SB41と重複して検出した2間×



第4図 遺構平面図 (1 : 300) ・土層断面図 (1 : 150)



3間の総柱建物で、E-17° - Nの東西棟である。南東隅にSK20があり、南東隅土坑とも考えられる。

### B. 土坑

**SK 15** (第6図) SB41の北側で検出した深さ1mの方形の土坑である。方向がSB41・42と近似しており建物に伴う土坑と考えられる。SB41とはあまりに近いため、SB 42に伴うものと考えられよう。遺物は土師器の小片が少量出土したのみである。

**SK20・21** (第7図) SB41・42と重複して検出した。SK21がSK20を切る。SB41の南東隅の柱穴はSK 20掘削後に検出した。SK20をSB42の南東隅土坑とした場合、掘立柱建物と土坑との前後関係は、SB41→SB42・SK20→SK21となる。

**SK12** (第4・8図) SB41・42の北約2mで検出した東西方向に長い不定形の土坑である。SD8を切る。土師器・陶器等コンテナバット2箱程度の遺物が出土した。

**SK25** (第4・8図) B地区東部中央で検出した東西方向に長い不定形の土坑である。溝状に延びているものは後述のSD24・29を除いては根等の攪乱によるものと考えられる。土師器・陶器等コンテナバット2箱とともに、炭が少量出土した。

**SK32** (第7図) SK25の南で検出した楕円形の土坑である。土師器鍋・皿・羽釜小片とともに鉄製の刀子が出土した。SK32は墓として使用され、刀子は副葬品であった可能性もある。

**SK31** (第4図) SK32の南で検出した方形の土坑である。遺物は土師器皿・鍋、陶製摺鉢とともに青磁片が出土した。

**SK38** (第4図) SK31の東で検出した。深さ30cmほどの楕円形の土坑である。遺物は土師器皿・鍋が少量出土した。

**SK16** (第7図) A地区西端中央、SD8の下層で検出した、円形でスリバチ状の断面を持つ土坑である。底に石が集中して出土した。

### C. 井戸

**SE22** (第8図) SB41・42の南東部で検出した。素掘りの井戸である。底は常時水が湧いていた。中程で土師器茶釜が逆位で出土した。

**SE34** (第8図) SK31の南東で検出した。素掘りの井戸である。深さ1m付近で完形に近い土師器

鍋・皿がまとまって出土した。

### D. 溝

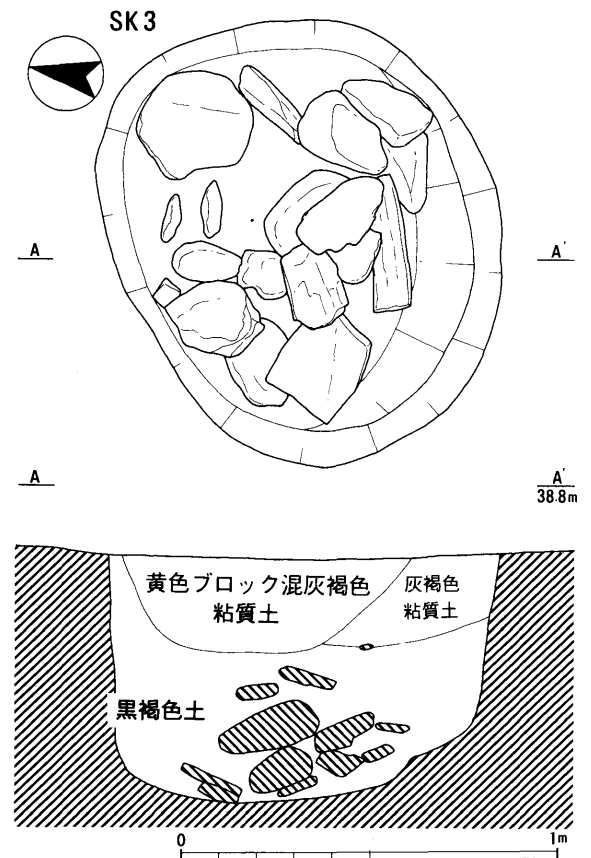
**SD8** (第4図) B地区西端を南北に流れる溝である。コンテナバット3箱程度の遺物を含む。SK12に切られる。

**SD14** (第4図) SK12とSB41・42の間で検出した。東端が深い。完形の土師器皿が出土した。

**SD24** (第4図) SK25に切られる溝である。完形の土師器皿が出土した。

**SD29** (第4・8図) SK25の下層で検出した。東から西に向かい、南へ折れる。土師器鍋・皿・羽釜、陶器壺・平椀が出土した。

**SD5** (第4図) A・B両地区の南端にある溝で、両端は南に曲がる。北辺の長さは63mである。底はA地区およびB地区西端から10mほどは2～3本に分かれる。SE22の南東部付近では石を集中して検出した(図版1)。出土遺物には土師器鍋・皿・羽釜、陶器天目茶椀・灰釉皿・平椀・捏鉢・摺鉢のほか、石臼片、五輪塔、鉄砲玉と考えられる鉛玉が出土した。出土量はコンテナバット2箱程度になる。



第5図 SK3平面・断面図(1:20)

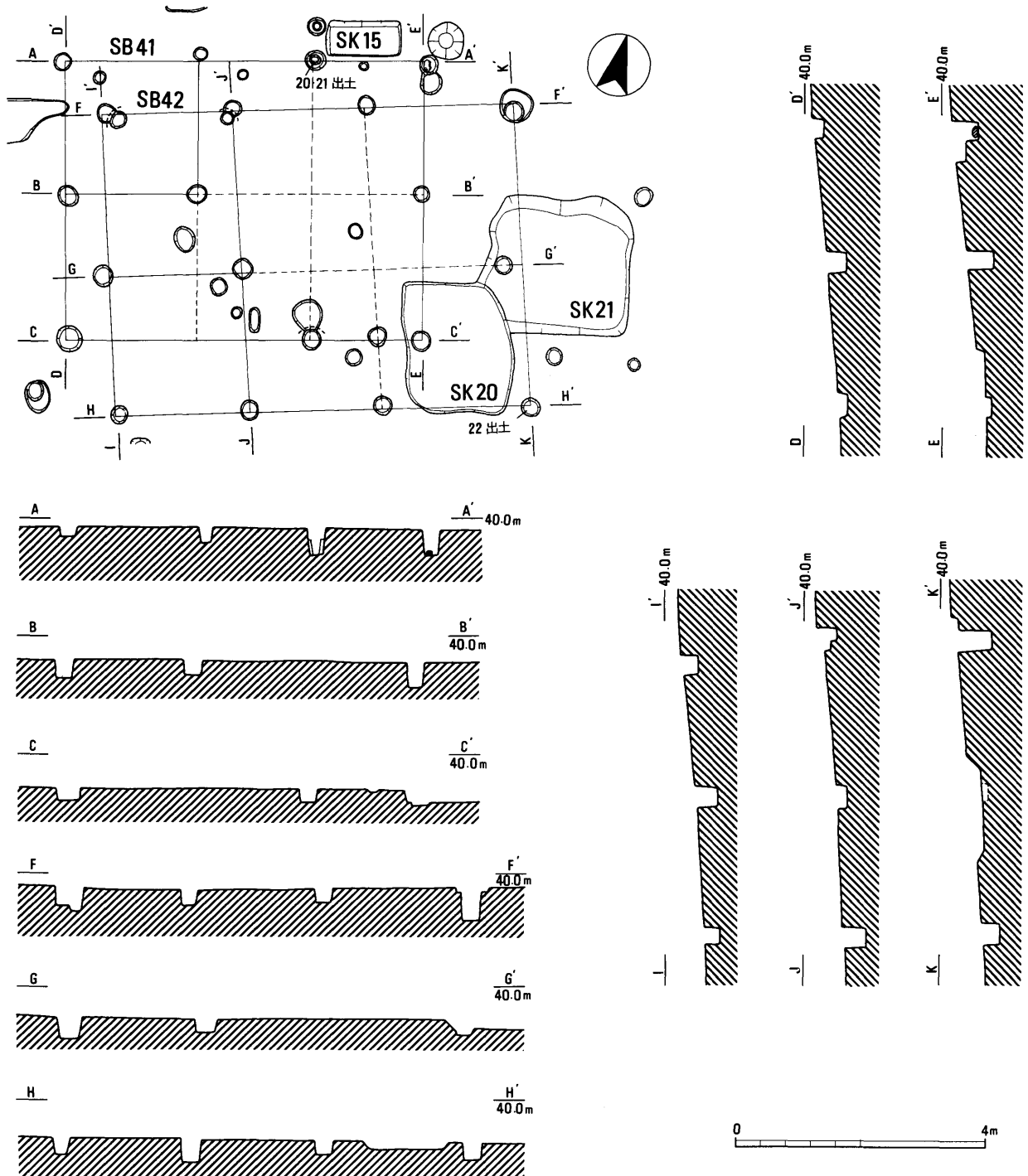
### (3) 時期不明の遺構

**SK18** (第4図) SK12の下層で検出した、円形でスリバチ状の断面を持つ土坑である。不明鉄製品が折れた状態でかたまって出土した。

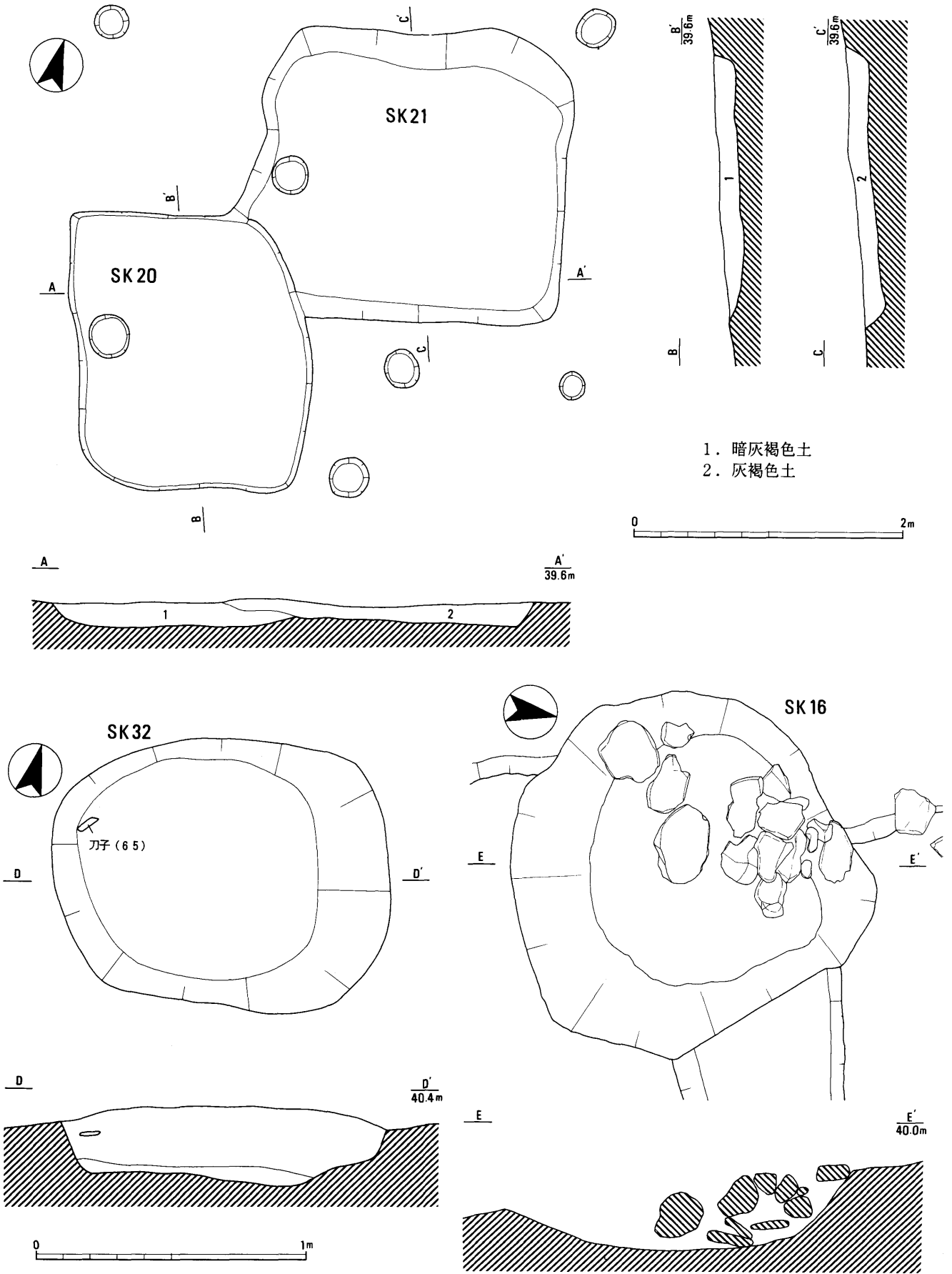
**SK43** (第4図) SK25の下層で検出した、楕円形でスリバチ状の断面を持つ土坑である。SK25と同時に掘削してしまったためこの遺構の遺物は確認できなかった。

### 4 下層の調査

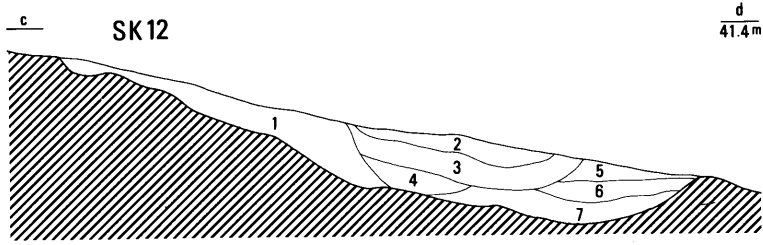
A地区で5箇所、B地区で7箇所あわせて12箇所の掘削を行った。その結果、チャートを中心とした剥片・石核が出土した。(第2表参照) 旧石器時代の遺跡範囲はB地区北半を中心としている。調査終了前に重機によってトレンチを設定した結果、5層上面からもチャート製の剥片・石核が出土した。



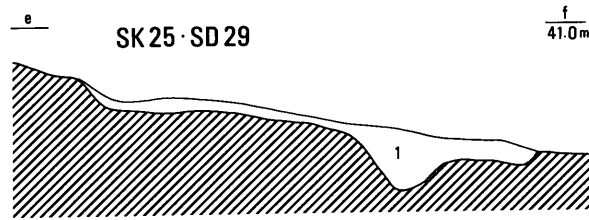
第6図 SB41・42、SK15平面・断面図(1:100)



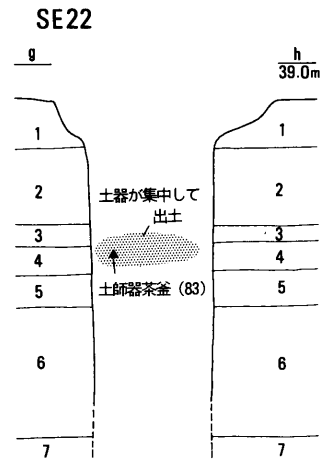
第7図 SK20・21、SK32、SK16平面・断面図 (SK20・21は1:40、SK32、SK16は1:20)



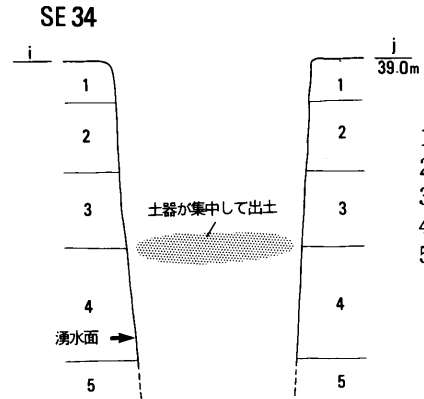
1. 褐色土
2. 黄橙色土
3. 暗橙色土に灰色土が混入
4. 灰色土
5. 灰褐色土
6. 褐色土
7. 暗灰褐色土



1. 灰褐色土

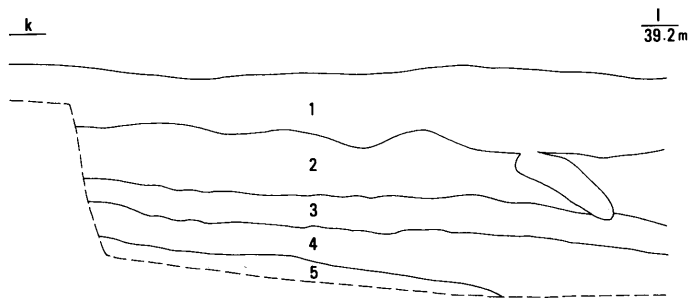


1. 暗褐色土
2. 黄色粘質土
3. 黄褐色土
4. 粘土混黄色土
5. 淡黄褐色粘質土
6. 黄白色粘土
7. 黄灰色砂



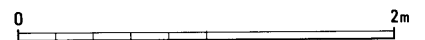
1. 黒褐色土
2. 橙色土
3. 暗橙色土
4. 黄灰色粘土
5. 黄灰色礫

B地区下層



1. 暗褐色土
2. 黄色土
3. 黄褐色土
4. 粘土混黄色土
5. 淡黄褐色粘質土

※各断面を測った場所は第4図に記入している。



第8図 SK12、SK25・SD29断面図、SE22、SE34断面略図、B地区下層断面図（1：40）

掘立柱建物

遺構名	規模 桁行×梁間	総柱・ 側柱の別	桁行 (m)		梁行 (m)		棟方向	柱穴掘形			柱径径 (cm)	時期	備考
			柱間 (西から)	柱間 (北から)	形状	径 (cm)		径 (cm)					
SB41	3間×2間	総柱	5.7 2.1+1.8+1.8	4.5 2.1+2.4	E16°N 東西棟	円形	30	15~45	29	Ⅱ期			
SB42	3間×2間	総柱	6.5 2.1+2.1+2.3	4.8 2.55+2.25	E17°N 東西棟	円形	30	25~35	不明	Ⅱ期	やや平行四角の形状をとる		

土坑

遺構名	規模 (m)	深さ (cm)	形状	時期	備考
SK3	(東西) 1.2 × (南北) 1.0	65	楕円形	Ⅰ期	井戸の可能性あり
SK15	(東西) 1.2 × (南北) 0.5	100	方形	Ⅱ期	
SK20	(東西) 1.7 × (南北) 2.1	20	隅丸方形	Ⅱ期	SB42の南東隅土坑の可能性あり
SK21	(東西) 2.5 × (南北) 2.2	15	隅丸方形	Ⅱ期	SK20を切る
SK12	(東西) 12.5 × (南北) 4	35	不定形	Ⅲ期	SK8を切る
SK25	(東西) 13.5 × (南北) 2.2~4.2	10	不定形	Ⅳ期	
SK32	(東西) 1.2 × (南北) 1.0	30	楕円形	Ⅲ期	中世墓の可能性あり
SK31	(東西) 2.0 × (南北) 1.8以上	30	方形	Ⅲ期	
SK38	(東西) 0.9 × (南北) 0.8	30	楕円形	Ⅲ期	
SK16	(径) 1.4	30	円形	Ⅱ~Ⅲ期	SD8の下層で検出
SK18	(径) 0.9	15	円形	不明	SK12の下層で検出
SK43	(東西) 2.1 × (南北) 1.6	35	楕円形	不明	SK25の下層で検出

溝

遺構名	幅 (m)	深さ (m)	深さ (cm)	方位	時期	備考
SD8	1	20	30~40	N14°W	Ⅲ期	
SD14	0.1~0.5	5	20	E12°NからE40°N	Ⅱ~Ⅲ期	東端部で完形の上層皿出土
SD29	0.4~0.6	10	30~40	E6°NからN1°W	Ⅳ期?	SD25の下層で検出
SD5	3.0~4.0以上	63	60以上	E14°NからN14°W	Ⅲ~Ⅳ期	西の方の底は2~3条に分かれる
SD24	0.5	6	7	E12°N	Ⅱ期以降	SK25に切られる

井戸

遺構名	規模 (m)	深さ (cm)	時期	備考
SE22	[上面](東西)0.8×(南北)1.0[下面](径)0.7~0.8	不明	Ⅱ期	深さ80cmのところまで茶釜等が出土
SE34	(東西) 1.0 × (南北) 0.9	不明	Ⅲ期	深さ1mのところ土器器鍋・皿が集中して出土

第1表 遺構観察表

報告番号	地区	(cm) W-E	(cm) N-S	(m) 海拔高	器種	石材	備考	報告番号	地区	(cm) W-E	(cm) N-S	(m) 海拔高	器種	石材	備考
1	B-02	-	-	-	RF	チャート	上層の包含層出土	-	B-C2	-	-	-	剥片	チャート	上層の包含層出土
2	B-M1⑨	90	79	41.12	RF	チャート	取上げ番号 2	-	B-D5	-	-	-	剥片	チャート	〃
3	B-H1⑦	4	95	41.17	RF	チャート	取上げ番号 2	-	B-F3	-	-	-	剥片	チャート	〃
4	B-M4	-	-	-	使用痕のある剥片	チャート	上層の包含層出土	-	B-F3	-	-	-	剥片	チャート	〃
5	B-F1⑥	82	171	41.12	剥片	頁岩	取上げ番号 2	-	B-F4	-	-	-	剥片	チャート	〃
6	B-M1⑨	100	80	41.07	石核	チャート	取上げ番号 3	-	B-G1	-	-	-	剥片	チャート	〃
7	B-包	-	-	-	石核	チャート	耕作土からの出土	-	B-G1	-	-	-	剥片	チャート	〃
8	B-K1⑧	-	-	-	石核	砂岩		-	B-G1	-	-	-	剥片	チャート	〃
9	B-G6	-	-	約38.0	石核	チャート	重機トレンチ5層上面	-	B-G1	-	-	-	剥片	チャート	上層のビット出土
10	B-G6	-	-	約38.0	RF	チャート	重機トレンチ5層上面	-	B-G4	-	-	-	剥片	チャート	〃
-	B-F1⑥	5	95	41.18	剥片	チャート	取上げ番号 1	-	B-G6	-	-	-	剥片	チャート	上層の包含層出土
-	B-F1⑥	85	195	41.10	剥片	チャート	取上げ番号 3	-	B-H1	-	-	-	砕片	チャート	〃
-	B-F1⑥	140	70	41.22	剥片	頁岩	取上げ番号 4	-	B-H1	-	-	-	剥片	チャート	上層のビット出土
-	B-F1⑥	180	130	41.20	剥片	砂岩	取上げ番号 5	-	B-H7	-	-	-	剥片	チャート	上層のSD5出土
-	B-F1⑥	82	150	41.11	剥片	チャート	取上げ番号 6	-	B-I1	-	-	-	剥片	チャート	上層の包含層出土
-	B-F3⑩	70	123	40.84	砕片	チャート	取上げ番号 2	-	B-J3	-	-	-	剥片	チャート	〃
-	B-F3⑩	39	181	40.95	砕片	チャート	取上げ番号 3	-	B-L1	-	-	-	砕片	チャート	〃
-	B-H1⑦	119	23	41.12	剥片	チャート	取上げ番号 1	-	B-L1	-	-	-	剥片	チャート	〃
-	B-M1⑨	150	8	41.14	剥片	チャート	取上げ番号 1	-	B-L1	-	-	-	剥片	チャート	〃
-	B-M1⑨	15	114	41.08	剥片	チャート	取上げ番号 4	-	B-L1	-	-	-	剥片	チャート	〃
-	B-M1⑨	140	121	41.05	剥片	チャート	取上げ番号 5	-	B-L1	-	-	-	砕片	チャート	〃
-	B-M1⑨	140	121	41.05	剥片	チャート	取上げ番号 6	-	B-G6	-	-	-	剥片	砂岩	重機トレンチ5層上面
-	B-M1⑨	-	-	-	砕片	チャート		-							

第2表 旧石器時代出土遺物一覧表

〔※「地区」の項の丸付数字は下層の調査区を示す(第4図参照)〕

## IV 調査の成果～遺物～

今回の調査では総量でコンテナバット15箱程度の遺物が出土した。以下、各遺構出土遺物について概述する。なお、数値等は遺物観察表を参照されたい。

### 1 旧石器時代の遺物 (1～10)

今回の調査では製品は確認できず、剥片や石核のみの出土であった。1～8は上層及び下層の調査中に出土したものである。1・2はチャート製の二次調整の施された剥片(以下RF)で、それぞれ2側縁、1側縁に調整を施している。3もチャート製のRFで腹面に調整がみられる。4はチャート製の剥片で、刃部に細かな使用痕跡が認められる。5は頁岩製の剥片で、連続して定形的な剥片が作られていることがうかがえる。6・7はチャート製の石核でそれぞれ5・2面以上の剥片剥離面を持つ。8は砂岩製の石核で連続した3面の剥片剥離面を持つ。9・10は重機によるトレンチ掘削時に出土したものである。9はチャート製の石核で4面以上の剥片剥離面を持つ。10はチャート製のRFである。

### 2 鎌倉時代の遺物について

#### (1) SK3出土の遺物 (11～19)

土師器皿・鍋、山茶椀が出土した。土師器は全て南伊勢系のもので、蚊山遺跡左郡地区のI期のセットに類似する。土師器鍋(18・19)は伊藤編年<sup>②</sup>の第1段階b型式に相当する。

#### 3 室町時代中葉以降の遺物について

土師器・陶器・磁器等が出土している。土師器は全て南伊勢系、陶器は瀬戸・美濃系を中心とし、磁器は中国産のものである。

#### (1) SB41・42出土の遺物 (20～22)

土師器皿(20・22)はいずれもA系統<sup>③</sup>に属するもので内外面をナデ調整している。縁釉小皿(21)は縁に灰釉が施されたもので、古瀬戸編年の後IV期ごろのものである。20・21は柱痕跡からの出土である。

#### (2) SK20・21出土の遺物 (23～30)

土師器皿はA系統のもの(23・24・28・29)とB系統のもの(25・30)がある。鍋は伊藤編年の第3段階b型式に相当する。天目茶椀(27)は高台を欠くが、高台周辺が露胎で、丸みをもった体部が緩や

かに立ち上がる。古瀬戸編年後II～III期ごろのものと考えられる。

#### (3) SK12出土の遺物 (31～50)

整理箱2箱分の遺物が出土した。土師器皿はA系統(31)、B系統(32)がある。33は皿の破片に穴を穿けたものでハトメ銭<sup>⑤</sup>に類するものである。天目茶椀(34)は口縁部が強く外反し、高台付近が露胎のものである。平椀(35)は高い貼り付け高台をもつ。縁釉小皿(37)は、外反した口縁端部に灰釉がかかる。摺鉢(40)は錆釉を施したもので、非常にすり減っている。陶器の時期にはばらつきがあるが、古瀬戸編年後IV期から大窯編年1期ごろに中心がある。志野丸皿(37)は大窯編年5期のものであるが、混入であろう。鍋・羽釜・茶釜類はそれぞれ中・小2種類が認められる。中型の鍋には口縁を折り返したもの(49)、半球形のもの(46・47)、口縁部の折り返しが認められないもの<sup>⑦</sup>(43)の3種が確認できた。伊藤編年の第4段階c型式に相当する。鉄刀は先端のみの出土である。

#### (4) SK25出土の遺物 (51～62)

土師器皿はB系統(52)とD系統(53)がある。鍋は中型のものと小型(62)のものがあり、伊藤編年の第4段階d～e型式に相当する。志野丸皿(54)は大窯編年の第4期、端反皿(56)は第1期と、ばらつきがある。

#### (5) SK32出土の遺物 (63～65)

土師器皿A系統(63)、B系統(64)および土師器鍋の小片が出土している。鍋は伊藤編年の第4段階b～c型式と考えられる。65は土坑の西端部付近で出土したもので、刀子の先端部であろう。

#### (6) SK31出土の遺物 (66～77)

土師器皿はA系統(66・67)とB系統(68～72)がある。摺鉢(74)は古瀬戸編年の後IV期古段階に相当する。鍋は中型と小型の2種類があり、伊藤編年の第4段階c型式に相当する。青磁椀は、底面にスタンプ文を施し薄い釉がかかるもので13世紀以降のものである。

#### (7) SK38出土の遺物 (78・79)

土師器皿B系統、鍋が出土している。鍋は小片であるが、伊藤編年の第4段階c型式に相当しよう。

#### (8) SK16出土の遺物 (80)

土師器鍋と半球形鍋(80)が出土している。

#### (9) SE22出土の遺物 (81~85)

茶釜(83)は肩部に偏平なつまみを持つ一般的なものである。鍋(82)は小片であるが伊藤編年の第3段階b型式に相当する。

#### (10) SE34出土の遺物 (86~101)

土師器皿はA系統(86)とB系統(87~93)がある。摺鉢(94)は古瀬戸編年の後Ⅳ期に相当する。鍋は中型と小型の2種類があり、伊藤編年の第4段階b~c型式に相当する。

#### (11) SD8出土の遺物 (102~131)

土師器皿はB系統(102)、C系統(103)、D系統(104・105)がある。縁釉小皿(106・107)、天目茶碗(108・109)、平椀(110)は古瀬戸編年後Ⅳ期ごろのものである。青磁椀(111)は森田・横田氏分類<sup>⑧</sup>の龍泉窯系のⅠ類に相当する。114は摺鉢の底を利用した加工円盤で周囲を敲打によって調整している。茶釜(117・118)は小型で鋳をもたない。羽釜は小型のものと同型のものがある。鍋は中型と小型があり小型鍋の口縁端部は折り返すもの(124・125)とつまみあげるもの(122・123)の2通りがある。その他、半球型鍋(130)や金属模倣の鍋(126)も見られる。総じて伊藤編年の第4段階c型式に相当しよう。

#### (12) SD14出土の遺物 (132・133)

土師器皿A系統(132)・B系統(133)がある。

#### (13) SD24出土の遺物 (134)

土師器皿A系統(134)がある。

#### (14) SD29出土の遺物 (135~138)

土師器皿はC系統がある。鍋(138)は小片であるが伊藤編年の第4段階e~f型式に相当しよう。平椀(136)・瓶(壺)の底部(137)は古瀬戸編年後期の範疇でとらえられよう。

#### (15) SD10出土の遺物(139)

青磁の小椀(139)が出土した。13世紀末以降のものである。

#### (16) SD5出土の遺物 (140~169)

土師器皿はB系統(140)、C系統(141~145)、D系統(146・147)がある。151は天目茶碗の底部を加

工した加工円盤である。152は筒形香炉もしくは小壺と考えられ、口縁部に鉄釉が施されている。153は花瓶もしくは瓶子の肩部で灰釉が施される。154は鉢類の口縁部である。錆釉が施されているが、胎土の感じから瀬戸・美濃製品ではない可能性もある。このほか天目茶碗・平椀・折縁深皿などが出土しており、古瀬戸編年後Ⅳ期から大窯編年1期ごろに相当しよう。鍋は中型と小型のものがある。165は伊藤編年の第4段階e~f型式に相当しよう。167は石の集中部から出土した。半分に割れ、摺目も確認できなかった。石垣等に転用されたものであろう。168・169はいずれも一石五輪塔の一部と考えられる。

#### 4 時期不明遺構出土の遺物 (170)

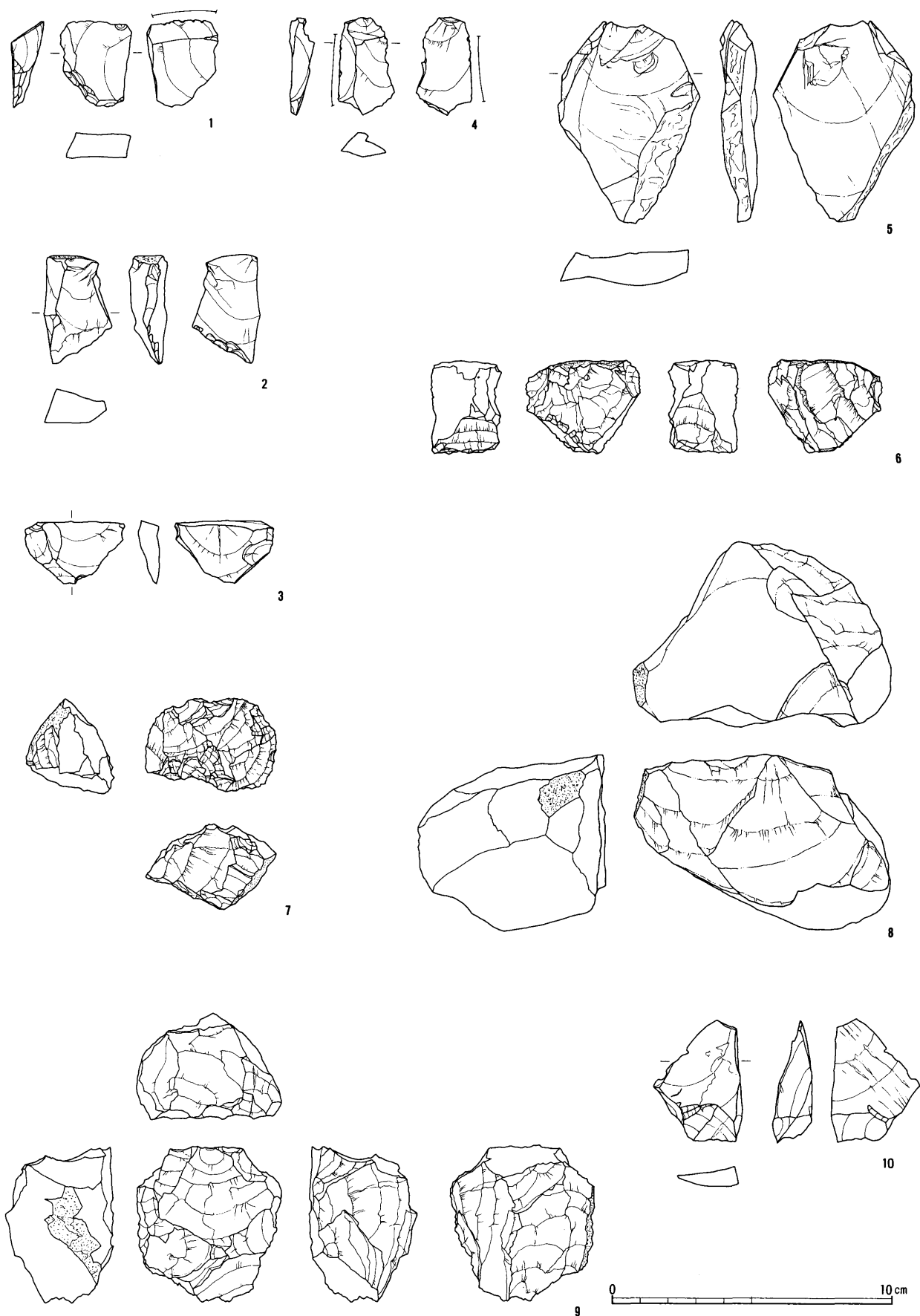
SK18では、底部付近から不明鉄製品(170)が折れた状態で出土した。先端が広く反った板が毛抜き状に折れ曲がると考えられる。用途は不明である。

#### 5 その他の遺構・包含層出土の遺物 (171~185)

176は灰釉丸皿で、江戸時代に下るものであろう。177は縁釉小皿の底部で、墨書が認められる。178は、高い高台を持つ。土師器小椀であろうか。184は内面にスタンプ文を施したもので、内外面共に厚く釉薬が施され、高台内部の釉薬は削り取られている。175は土師器茶釜の口縁部である。

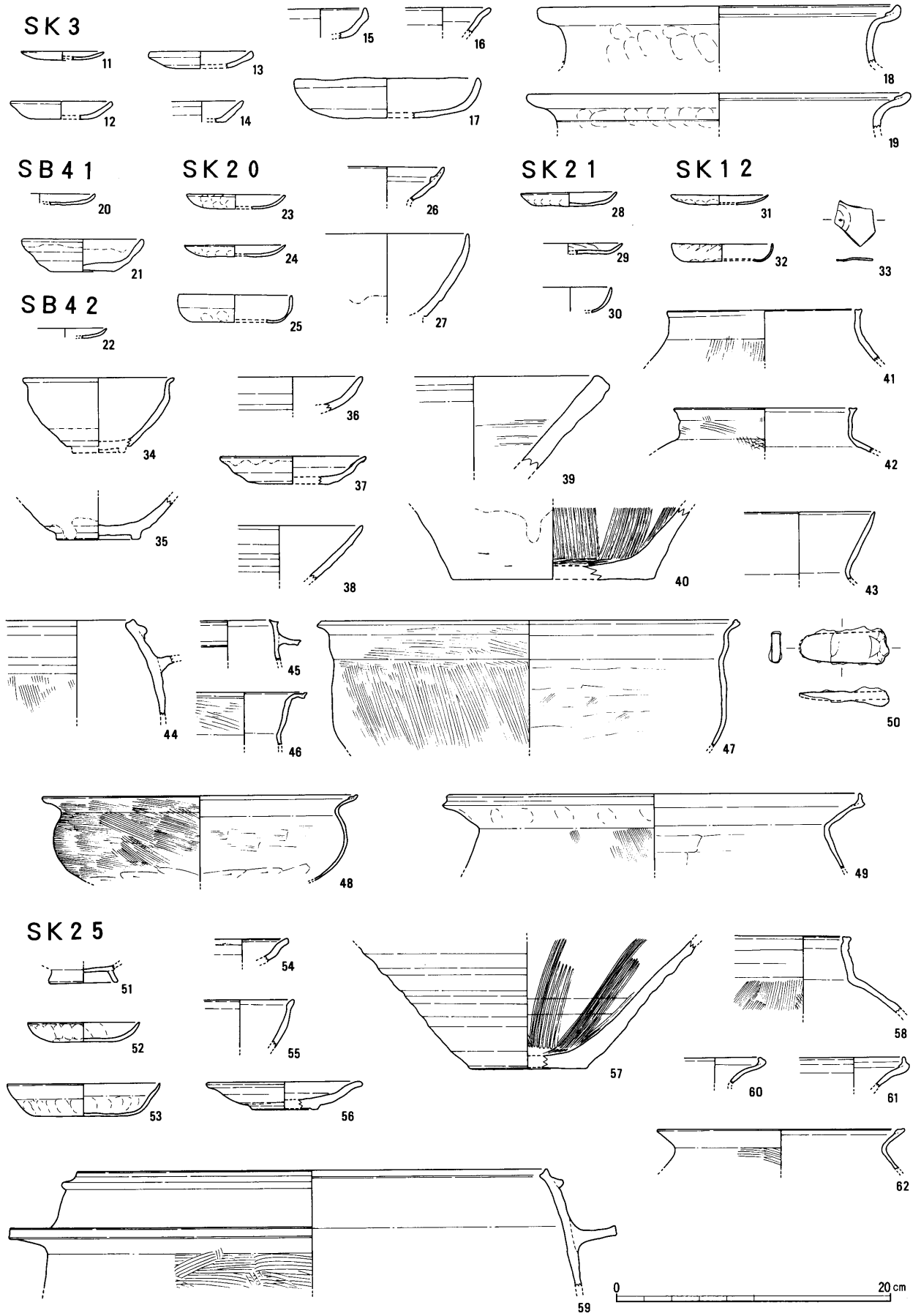
〔註〕

- ①前川嘉宏ほか『近畿自動車道(勢和~伊勢)埋蔵文化財発掘調査報告-第6分冊-蚊山遺跡左郡地区』(1993年、三重県埋蔵文化財センター)
- ②伊藤裕偉「南伊勢系土師器の展開と中世土器工人」(『研究紀要第1号』1992年、三重県埋蔵文化財センター)
- ③南伊勢系土師器皿の分類は次の文献の分類に従った。(伊藤裕偉「多気遺跡郡発掘調査報告」1993年、三重県埋蔵文化財センター)
- ④藤澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅱ-古瀬戸後期様式の編年-」(『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅹ』1991年、瀬戸市歴史民俗資料館)
- ⑤伊藤裕偉「多気遺跡郡発掘調査報告Ⅳ 松月院跡・伝本願寺跡」(1997年、三重県埋蔵文化財センター)では土師器鍋類の破片を円形に加工して中央に穴を開けたものが出土している。本例もそれに類似するものであろうか。
- ⑥藤澤良祐「瀬戸市史陶磁史編四」(1993年、愛知県瀬戸市)
- ⑦南伊勢系土師器の中型鍋で口縁端部を折り返さないもの出土は少なく、これまで若宮遺跡〔伊藤裕偉「若宮遺跡」(『昭和63年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告-第1分冊-』1989年、三重県教育委員会)等]で確認されていたのみであった。
- ⑧森田勉・横田堅次郎「太宰府出土の輸入中国陶磁器について」(『九州歴史資料館研究論集』4、1979年、九州歴史資料館)



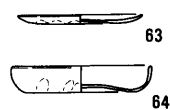
第9図 出土遺物実測図(1) (1:2)



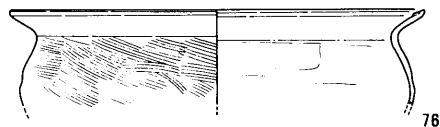
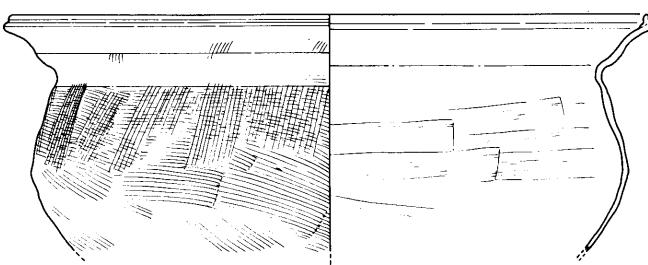
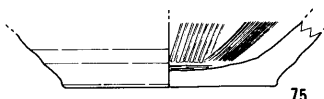
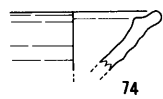
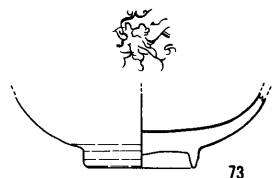
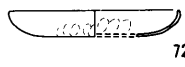
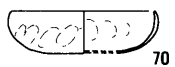
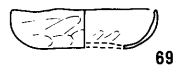
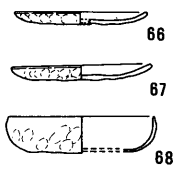


第10図 出土遺物実測図(2)(1:4)

SK 3 2



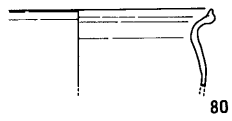
SK 3 1



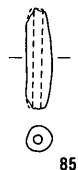
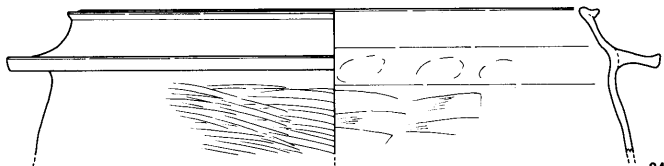
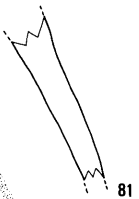
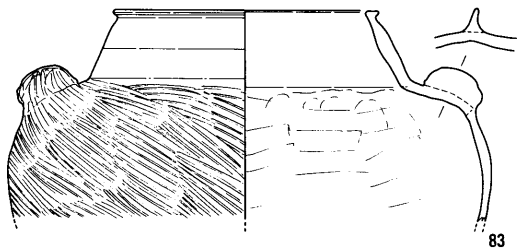
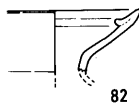
SK 3 8



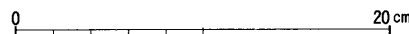
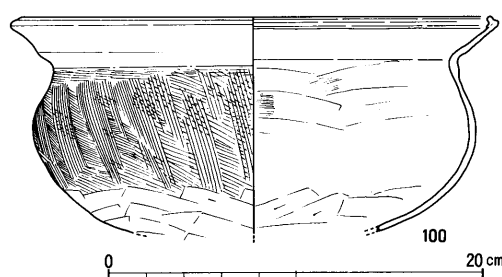
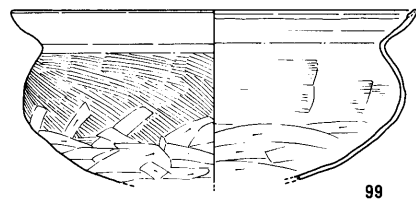
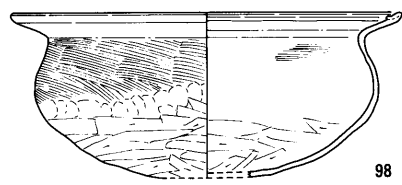
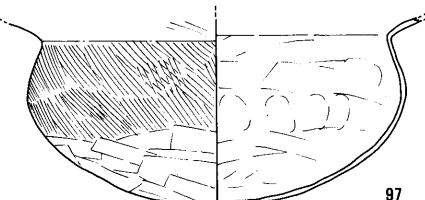
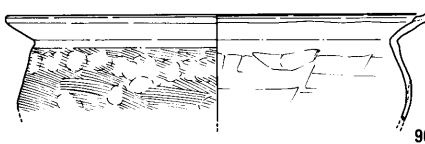
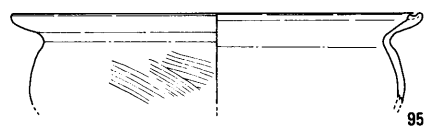
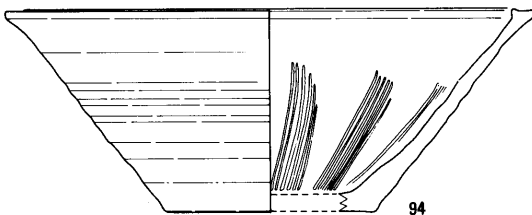
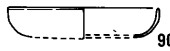
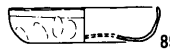
SK 1 6



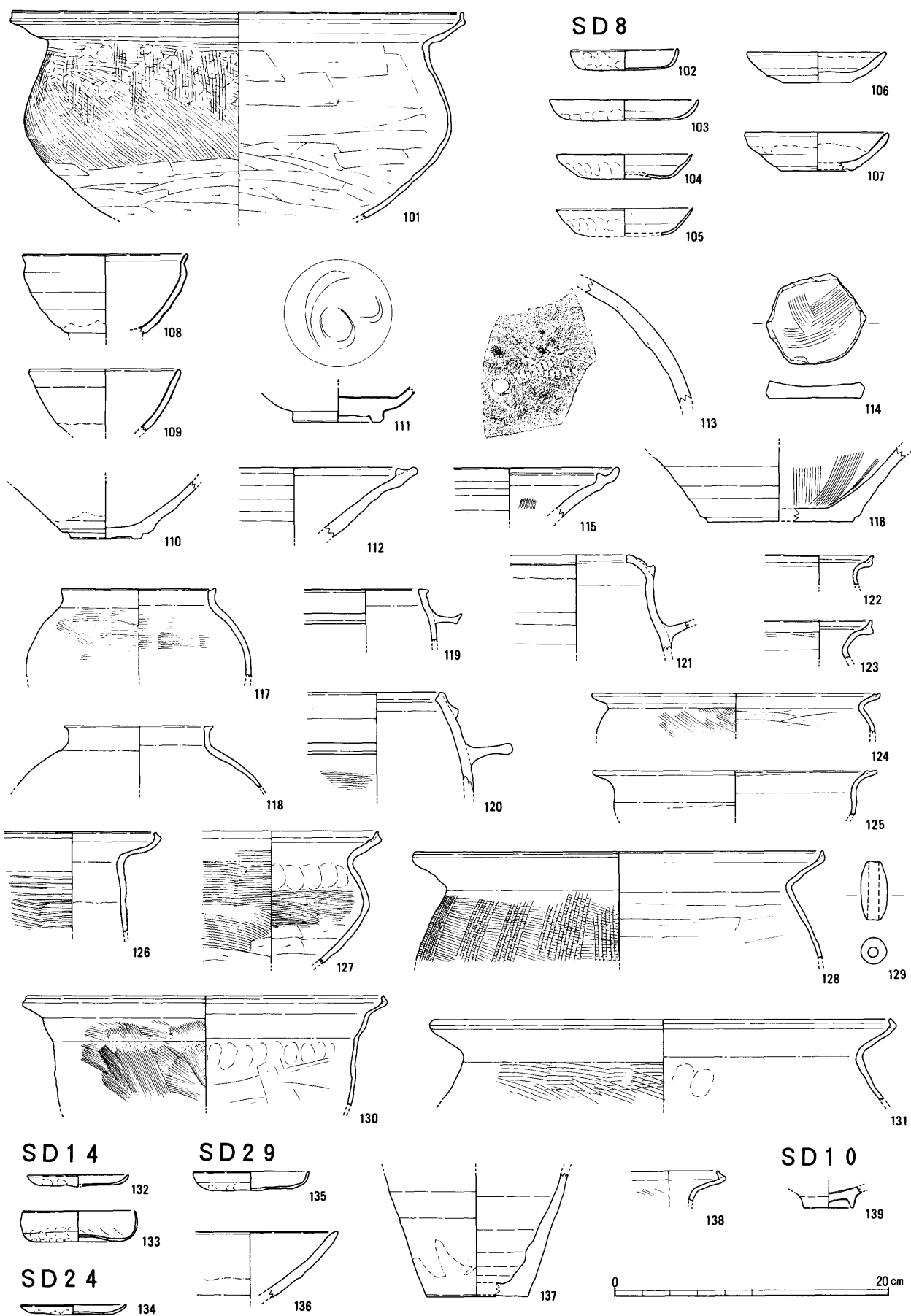
SE 2 2



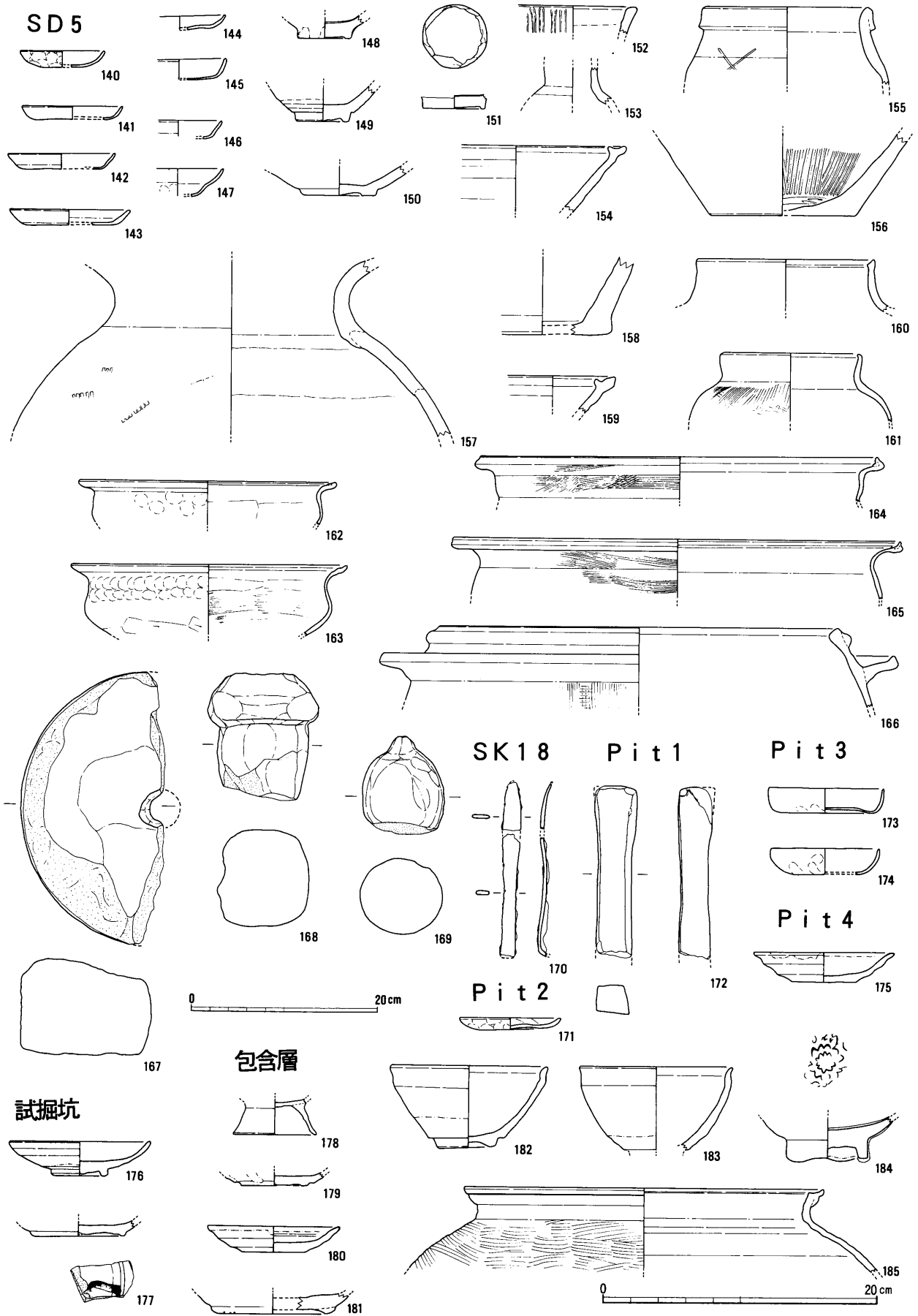
SE 3 4



第11图 出土遺物実測図(3)(1:4)



第12図 出土遺物実測図(4)(1:4)



第 13 図 出土遺物実測図 (5) (1 : 4、167~169のみ 1 : 6)

報告 番号	登録 番号	器 種	地 区	法 量				石 材	報告 番号	登録 番号	器 種	地 区	法 量				石 材
				最長 (cm)	最幅 (cm)	最厚 (cm)	重量 (g)						最長 (cm)	最幅 (cm)	最厚 (cm)	重量 (g)	
1	39-01	R F	B-02	3.1	2.5	1.2	9.3	チャート	6	39 06	石 核	B-M1⑨	3.4	4.1	2.4	37.4	チャート
2	39-02	R F	B-M1⑨	3.8	2.4	1.2	12.4	チャート	7	39 07	石 核	B-包	3.4	4.7	3.1	42.2	チャート
3	39-03	R F	B-H1⑦	2.2	3.5	0.9	6.9	チャート	8	39 08	石 核	B-K1⑧	6.3	9.2	6.7	403.0	砂 岩
4	39-04	使用痕のある刻片	B-M4	3.5	2.0	0.8	5.1	チャート	9	39 09	石 核	B-G6	5.6	5.2	3.8	121.0	チャート
5	39-05	刻片	B-F1⑥	7.2	5.0	1.2	40.4	頁 岩	10	39 10	R F	B-G6	4.5	3.2	1.3	17.4	チャート
報告 番号	登録 番号	器 種	地 区	遺 構	法 量 (cm)			調 整 ・ 技 法 上 の 特 徴		胎 土	焼 成	色 調	残 存 度	備 考			
口径	器高	その他	調整	技法	上	の	特	徴									
11	1-1	土師器 皿A	A-D7	SK3	6	0.6		内:ナデ 外:ナデ		密	良	にぶい橙 7.5YR6/4	口径1/4				
12	1-6	土師器 皿	A-D7	SK3	7	1.3		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ		密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	口径1/6				
13	1-2	土師器 皿	A-D7	SK3	7.5	1.3		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・ヨコナデ		密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	口径1/6				
14	1-3	土師器 皿	A-D7	SK3	不明	1.5		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・ヨコナデ		やや粗	良	にぶい橙 7.5YR7/4	小片				
15	1-4	土師器 皿	A-D7	SK3	不明	2.1		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・ヨコナデ		やや粗	良	にぶい橙 7.5YR7/4	小片				
16	1-5	陶器 山茶碗	A-D7	SK3	不明	不明		内:ロクロナデ 外:ロクロナデ		密	良	褐灰 7.5YR6/1	小片				
17	1-9	土師器 皿	A-D7	SK3	13	2.8		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・ヨコナデ・オサエ		密	良	橙 7.5YR0/6	口径1/2				
18	1-8	土師器 鍋	A-D7	SK3	26	不明		内:ヨコナデ 外:ヨコナデ		粗	やや不良	にぶい橙 10YR7/3	口径1/6				
19	1-7	土師器 鍋	A-D7	SK3	26	不明		内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・オサエ・ナデ		粗	良	にぶい橙 7.5YR7/4	口径1/6				
20	9-9	土師器 皿A	B-C4	SB41	不明	0.8		内: 外:ナデ・オサエ		やや粗	良	浅黄橙 7.5YR8/4	小片				
21	8-2	陶器 線軸陶器	B-C4	SB41	8.5	5.4	底径4.5	内:ロクロナデ・口縁付近灰軸 外:ロクロナデ・糸切り底・口縁付近灰軸		密	良	軸色:浅黄5YR7/4 表地:灰白5YR/1	口径3/4				
22	9-8	土師器 皿A	B-D5	SB42	不明	0.8		内:ナデ 外:ナデ・オサエ		密	良	灰黄:2.5Y7/2	小片				
23	9-5	土師器 皿A	B-D5	SK20	7	1		内:ナデ 外:ナデ・オサエ		密	良	浅黄橙 10YR8/3	口径1/4				
24	8-7	土師器 皿A	B-D5	SK20	7.1	0.8		内:ナデ 外:ナデ・オサエ		密	良	浅黄橙 10YR8/3	口径1/3				
25	9-3	土師器 皿B	B-D5	SK20	8	2		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・オサエ・ヨコナデ		密	良	灰白 10YR8/2	口径1/3				
26	9-6	土師器 鍋	B-D5	SK20	不明	不明		内:ヨコナデ 外:ヨコナデ		密	良	明褐灰 7.5YR7/2	小片				
27	8-6	陶器 天目茶碗	B-C5	SK20	不明	不明		内:ロクロナデ・鉄軸 外:ロクロナデ・ロクロズリ・鉄軸・高台付近鉄軸		密	良	軸色:灰褐5YR4/2 表地:灰白2.5Y8/2	小片				
28	8-8	土師器 皿A	B-D5	SK21	6.8	1		内:ナデ 外:ナデ・オサエ		密	良	明褐灰 7.5YR R4/2	口径1/4				
29	9-10	土師器 皿A	B-D5	SK21	不明	0.7		内:ナデ 外:ナデ・オサエ		密	良	灰白 10YR8/2	小片				
30	9-7	土師器 皿B	B-D5	SK21	不明	1.8		内:ナデ 外:ナデ		密	良	浅黄橙 10YR8/3	小片				
31	20-7	土師器 皿A	B-A3	SK12	7	0.7		内:ナデ 外:ナデ・オサエ		やや粗	不良	灰白 7.5YR8/2	口径1/3				
32	20-6	土師器 皿B	B-A3	SK12	7.2	1.3		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・オサエ		やや粗	不良	灰白 10YR8/2	口径1/3				
33	1-10	土師器 皿?	B-B3	SK12	不明	不明		内:ナデ 外:ナデ		密	良	浅黄橙 10YR8/3	小片	穿孔			
34	21-3	陶器 天目茶碗	B-B3	SK12	11	不明		内:ロクロナデ・鉄軸 外:ロクロナデ・ロクロズリ・鉄軸・高台付近露胎		密	良	軸色:暗赤褐5Y3/3 表地:にぶい黄橙10Y7/3	口径1/5				
35	18-4	陶器 平碗	B-A3	SK12	不明	不明	底径6	内:ロクロナデ・灰軸 外:ロクロナデ・高台・灰軸		密	良	軸色:オリ・灰10Y6/2 表地:灰白2.5Y8/2	底径1/4				
36	21-6	陶器 志野丸皿	B-B3	SK12	不明	不明		内:ロクロナデ・志野軸 外:ロクロナデ・志野軸		密	良	軸色:橙2.5Y8/1 表地:灰白7.5Y7/1	小片				
37	21-7	陶器 線軸小皿	B-A3	SK12	10	2	底径5	内:ロクロナデ・口縁付近灰軸 外:ロクロナデ・ロクロズリ・糸切り底・口縁付近灰軸		やや粗	良	軸色:灰白・灰5Y8/1 表地:淡黄2.5Y8/3 軸色:黄灰2.5Y6/2 表地:灰白2.5Y7/1	小片				
38	21-5	陶器 平碗	B-B3	SK12	不明	不明		内:ロクロナデ・灰軸 外:ロクロナデ・灰軸		密	良	軸色:黄灰2.5Y6/2 表地:灰白2.5Y7/1	小片	口縁部の軸葉がはがれている			
39	21-8	陶器 控鉢	B-C3	SK12	不明	不明		内:工具ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ		粗	良	橙 2.5Y6/6	小片				
40	21-4	陶器 控鉢	B-C13	SK12	不明	不明	底径14.8	内:擅自(1単位14本)・鉄軸 外:ロクロズリ・糸切り高台・鉄軸		粗	良	軸色:暗赤褐5Y3/3 表地:淡黄2.5Y8/3	底径1/6	摺り目がほとんど すり減っている			
41	21-2	土師器 茶釜	B-A3	SK12	14	不明		内:ナデ・ヨコナデ 外:ハケメ・ヨコナデ		やや粗	やや不良	にぶい橙 7.5YR7/4	口径1/10				
42	21-1	土師器 茶釜	B-A3	SK12	13	不明		内:ナデ・ヨコナデ 外:ハケメ・ヨコナデ		密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口径1/6				
43	1-11	土師器 鍋	B-B3	SK12	不明	不明		内:ヨコナデ 外:ヨコナデ		密	良	浅黄橙 10YR8/3	小片				
44	21-8	土師器 羽釜	B-C3	SK12	不明	不明		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・ヨコナデ・貼り付けナデ・ハケメ		粗	良	浅黄 2.5YR8/3	小片	口縁部に煤付着			
45	20-4	土師器 羽釜	B-A3	SK12	不明	不明		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・ヨコナデ・貼り付けナデ		やや粗	良	灰白 10YR8/2	小片				
46	20-5	土師器 鍋	B-A3	SK12	不明	不明		内:ナデ・ヨコナデ 外:ハケメ・ヨコナデ		密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	小片	外面に煤付着			
47	20-2	土師器 鍋	B-B3	SK12	30	不明		内:工具ナデ・ヨコナデ 外:ハケメ・ヨコナデ		やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7/3	口径1/7	外面に煤付着			
48	20-3	土師器 鍋	B-D3	SK12	23	不明		内:工具ハケメ・ヨコナデ・ケズリ 外:ハケメ・ヨコナデ・ケズリ		密	良	橙 7.5Y6/6	口径1/8	外面に煤付着			
49	20-1	土師器 鍋	B-C3	SK12	30	不明		内:工具ナデ・ヨコナデ 外:ハケメ・ヨコナデ		やや粗	良	浅黄橙 10YR8/3	口径1/6	外面に煤付着			
50	38-2	鉄製品 刀	B-B3	SK12	-	-	幅2.2	鍛造		-	-	-	先端のみ				
51	22-4	土師器 小碗	B-J2	SK25	不明	不明	高台径4.8	内:剥離しており不明 外:ナデ・貼り付けナデ		密	良	浅黄橙 7.5YR8/3	高台径1/2				
52	22-3	土師器 皿B	B-J2	SK25	8	1.4		内:ナデ 外:ナデ・オサエ		密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	口径1/4				
53	23-6	土師器 皿D	B-K2	SK25	11	2.4		内:ナデ・オサエ・ヨコナデ 外:ナデ・オサエ・ヨコナデ		密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	底部				
54	24-3	陶器 志野丸皿	B-J2	SK25	不明	不明		内:ロクロナデ・志野軸 外:ロクロナデ・志野軸		密	良	軸色:淡黄2.5Y8/3 表地:褐灰7.5YR6/2	小片				
55	22-5	陶器 天目茶碗	B-J3	SK25	不明	不明		内:ロクロナデ・志野軸 外:ロクロナデ・志野軸		密	良	軸色:暗赤褐5Y3/3 表地:にぶい黄橙10Y7/2	小片				
56	24-1	陶器 端灰皿	B-K2	SK25	11	2.1	高台径4.9	内:ロクロナデ・灰軸 外:ロクロナデ・削り出し高台・灰軸		密	良	軸色:灰白10Y8/2 表地:灰白2.5Y8/2	口径1/4				
57	25-1	陶器 控鉢	B-K2	SK25	不明	不明	底径5	内:擅自(1単位9本)・鉄軸 外:ロクロズリ・糸切り高台・鉄軸		粗	良	軸色:暗青灰5PB4/1 表地:灰白2.5Y8/2	底径2/5	摺り目が少しすり 減っている			
58	23-1	土師器 茶釜	B-K2	SK25	不明	不明		内:ナデ・ヨコナデ 外:ハケメ・ヨコナデ		密	良	浅黄橙 10YR8/3	小片				
59	25-2	土師器 羽釜	B-J2	SK25	34	不明		内:ナデ・ヨコナデ 外:貼り付けナデ・ハケメ・ヨコナデ		密	良	浅黄橙 10YR8/3	口径1/3	外面に煤付着			
60	23-4	土師器 鍋	B-J2	SK25	不明	不明		内:ヨコナデ 外:ヨコナデ		密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	小片				
61	23-5	土師器 鍋	B-J2	SK25	不明	不明		内:ヨコナデ 外:ヨコナデ		密	良	にぶい橙 7.5YR7/3	小片				
62	23-2	土師器 鍋	B-J2	SK25	18	不明		内:ナデ・ヨコナデ 外:ハケメ・ヨコナデ		密	良	浅黄橙 10YR8/3	口径1/7	小型鍋			
63	34-3	土師器 皿A	B-L3	SK32	6.6	0.5		内:ナデ 外:ナデ・オサエ		密	良	浅黄橙 7.5YR8/3	口径1/4				
64	33-8	土師器 皿B	B-L3	SK32	7.3	1.4		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・オサエ		密	良	灰白 10YR8/2	口径1/2				
65	38-1	鉄製品 刀子	B-L3	SK32	-	-	幅1.4	鍛造		-	-	-	-				
66	27-7	土師器 皿A	B-L4	SK31	7	0.6		内:ナデ 外:ナデ・オサエ		密	良	浅黄橙 10YR8/2	口径1/2				

第3表 出土遺物観察表 (1)

報告番号	登録番号	器種	地区	遺構	法量 (cm)			調整・技法上の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
					口径	器高	その他						
67	27-6	土師器 皿A	B-L4	SK31	7.4	0.9		内:ナデ 外:ナデ・オサエ	密	良	淡橙 5YR8/3	口径7/8	
68	27-4	土師器 皿B	B-L4	SK31	7.6	1.9		内:ナデ・オサエ 外:ナデ・ヨコナデ	密	良	浅黄橙 10YR8/3	口径3/8	
69	27-2	土師器 皿B	B-L4	SK31	7.6	2.1		内:ナデ 外:ナデ・オサエ	密	良	浅黄橙 10YR8/3	ほぼ完存	
70	27-5	土師器 皿B	B-L4	SK31	8	2.2		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・オサエ	密	良	浅黄橙 7.5YR8/3	口径1/5	
71	27-3	土師器 皿B	B-L4	SK31	8.3	1.9		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・オサエ	密	良	灰白 7.5YR8/2	口径3/8	
72	27-8	土師器 皿B	B-L4	SK31	8.8	1.5		内:ナデ 外:ナデ・オサエ	密	良	浅黄橙 7.5YR8/3	口径1/4	
73	26-4	青磁 碗	B-L4	SK31	不明	不明	高台径 5.6	内:ロクロナデ施軸 外:ロクロナデ・削り出し高台・施軸	密	良	釉色:灰白7.5YR8/3 素地:灰白2.5Y8/1	高台部完存	
74	27-9	陶器 播鉢	B-L4	SK31	不明	不明		内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	釉色:黄7.5Y6/3	小片	
75	26-3	陶器 播鉢	B-L4	SK31	不明	不明	底径 11.2	内:摺目(1単位9本)・納軸 外:ロクロナデ・糸切り高台・納軸	やや粗	良	釉色:暗褐 7.5Y7/4 素地:にぶい橙 5YR6/3	底径1/6	摺り目がかなりすり減っている
76	26-2	土師器 鍋	B-L4	SK31	22	不明		内:工具ナデ・ヨコナデ 外:ハケメ・ヨコナデ	密	良	浅黄橙 10YR8/3	口径1/4	
77	26-1	土師器 鍋	B-L4	SK31	31	不明		内:工具ナデ・ヨコナデ 外:ハケメ・ヨコナデ	密	良	明褐灰 7.5YR7/2	口径1/4	外面に煤付着
78	27-1	土師器 皿B	B-N3	SK38	8.4	2.1		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・オサエ	密	良	浅黄橙 7.5YR8/3	口径1/3	
79	27-10	土師器 鍋	B-N3	SK38	不明	不明		内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	密	良	浅黄橙 10YR8/4	小片	
80	34-8	土師器 鍋	B-B4	SK16	不明	不明		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・ヨコナデ	密	良	淡橙 5YR8/3	小片	外面に煤付着
81	23-3	陶器 壺	B-E6	SE22	不明	不明		内:ナデ・オサエ 外:タタキ・ナデ	やや粗	良	灰 5Y5/1	小片	
82	22-6	土師器 鍋	B-E6	SE22	不明	不明		内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	小片	
83	22-1	土師器 茶釜	B-E6	SE22	14	不明		内:工具ナデ・オサエ・ヨコナデ 外:張り付けナデ・ハケメ・ヨコナデ	密	良	にぶい橙 7.5YR7/3	口縁部完存	外面に煤付着
84	22-2	土師器 羽釜	B-E6	SE22	27	不明		内:工具ナデ・オサエ・ヨコナデ 外:張り付けナデ・ハケメ・ヨコナデ	密	良	淡黄 2.5Y8/3	口径1/8	外面に煤付着
85	8-10	土製 土鍋	B-E6	SE22	径12	長5.2	穴径5.2	全面ナデ	密	良	にぶい橙 7.5YR6/4	ほぼ完存	
86	29-6	土師器 皿A	B-M5	SE34	8.6	0.9		内:ナデ 外:ナデ・オサエ	密	良	浅黄橙 7.5YR8/4	口径1/8	
87	29-8	土師器 皿B	B-M5	SE34	6.8	1.7		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・オサエ	密	良	浅黄橙 7.5YR8/3	口径1/4	
88	29-4	土師器 皿B	B-M5	SE34	7.3	1.6		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・オサエ	密	良	灰白 7.5YR8/2	口径5/8	
89	29-7	土師器 皿B	B-M5	SE34	7.8	1.9		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・オサエ	密	良	浅黄橙 10YR8/3	口径1/8	
90	29-5	土師器 皿B	B-M5	SE34	8	1.6		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・オサエ	密	良	にぶい橙 7.5YR8/4	口径1/4	
91	29-2	土師器 皿B	B-M5	SE34	7.9	2		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・オサエ	密	良	浅黄橙 7.5YR8/4	口径1/2	
92	29-3	土師器 皿B	B-M5	SE34	8.1	1.8		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・オサエ・ヨコナデ	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	口径1/4	
93	29-1	土師器 皿B	B-M5	SE34	8.1 ~9.8	1.8		内:ナデ 外:ナデ・オサエ	密	良	浅黄橙 10YR8/3	完存	油煙付着、ゆがみ
94	28-1	陶器 播鉢	B-M5	SE34	26	10.8		内:摺目(1単位6本) 外:ロクロナデ・ロクロケズリ・糸切り高台	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	底径1/4	摺り目がかなりすり減っている
95	28-2	土師器 鍋	B-M5	SE34	22	不明		内:ナデ・ヨコナデ 外:ハケメ・ヨコナデ	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	口径1/4	外面に煤付着
96	32-2	土師器 鍋	B-M5	SE34	22	不明		内:工具ナデ・ヨコナデ 外:ハケメ・ヨコナデ・オサエ	密	良	浅黄橙 10YR8/3	口径3/5	外面に煤付着
97	31-2	土師器 鍋	B-M5	SE34	不明	不明	頸部 18.5	内:工具ナデ・ヨコナデ・ケズリ 外:ハケメ・ヨコナデ・ケズリ	密	良	浅黄橙 10YR8/3	胴部ほぼ完存	外面に煤付着 小型鍋
98	30-1	土師器 鍋	B-M5	SE34	21	8.9		内:工具ナデ・ヨコナデ・ケズリ 外:ハケメ・ヨコナデ・オサエ・ケズリ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	口径1/2	外面に煤付着
99	30-2	土師器 鍋	B-M5	SE34	21	不明		内:工具ナデ・ヨコナデ・ケズリ 外:ハケメ・ヨコナデ・オサエ・ケズリ	密	良	にぶい黄橙 10YR8/2	口径1/3	外面に煤付着
100	31-1	土師器 鍋	B-M5	SE34	25~26	不明		内:工具ナデ・ヨコナデ・ケズリ 外:ハケメ・ヨコナデ・ケズリ	密	良	浅黄橙 10YR8/3	口縁部完存	外面に煤付着
101	32-1	土師器 鍋	B-M5	SE34	33	不明		内:工具ナデ・ヨコナデ・ケズリ 外:ハケメ・ヨコナデ・ケズリ	密	良	淡黄 2.5Y8/4	口径3/4	外面に煤付着
102	14-4	土師器 皿B	B-A2	SD8	7.8	1.5		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・オサエ	密	良	灰白 10YR8/2	口径1/2	
103	14-1	土師器 皿C	B-A2	SD8	11	1.5		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・オサエ・ヨコナデ	密	良	灰白 7.5YR8/2	口径8/2	
104	14-2	土師器 皿D	B-A2	SD8	9.9	1.8		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・オサエ・ヨコナデ	密	良	浅黄橙 7.5YR8/3	口径2/8	内面に煤付着
105	14-3	土師器 皿D	B-A3	SD8	10.0	1.9		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・オサエ・ヨコナデ	密	良	浅黄橙 10YR8/3	口径1/5	
106	18-6	陶器 緑釉陶器	B-A3	SD8	10	2.2	底径 5.1	内:ロクロナデ・口縁付近灰軸 外:ロクロナデ・ロクロケズリ・糸切り底・口縁付近灰軸	密	良	釉色:オリブ黄10Y6/2 素地:灰白5Y8/2	底部完存	内底がすり減っている
107	18-7	陶器 緑釉陶器	B-B2	SD8	11	2.8	底部 5.5	内:ロクロナデ・口縁付近灰軸 外:ロクロナデ削り出し高台・口縁付近灰軸	密	良	釉色:明緑灰5G7/1 素地:灰白2.5Y8/2	口径1/4	内底がすり減っている
108	18-3	陶器 天目茶碗	B-B3	SD8	12	不明		内:ロクロナデ・鉄軸 外:ロクロナデ・鉄軸・高台付近露胎	密	良	釉色:黒褐10YR8/1 素地:灰白10YR8/1	口径1/8	
109	18-2	陶器 天目茶碗	B-A2	SD8	11	不明		内:ロクロナデ・鉄軸 外:ロクロナデ・鉄軸・高台付近露胎	密	良	釉色:暗褐10YR8/3 素地:灰白10YR8/2	口径1/6	
110	18-1	陶器 平碗	B-A3	SD8	不明	不明	底径 5.2	内:ロクロナデ・灰軸 外:ロクロナデ・削り出し高台・灰軸	密	良	釉色:オリブ黄7.5YR8/2 素地:灰白2.5Y8/2	底部完存	
111	19-6	青磁 碗	B-A2	SD8	不明	不明	底径 6.5	内:ロクロナデ・施軸 外:ロクロナデ・削り出し高台・施軸	密	良	釉色:明緑灰7.5G7/1 素地:灰白N8/	底径完存	
112	19-1	陶器 折縁深皿	B-A2	SD8	不明	不明		内:ロクロナデ・灰軸 外:ロクロナデ・灰軸	密	良	釉色:浅黄 5Y7/4 素地:灰白2.5Y7/1	小片	
113	19-5	陶器 壺	B-A3	SD8	不明	不明		内:ナデ 外:タタキ・ナデ	密	良	灰 N6/	小片	
114	19-4	陶器 播鉢	B-A3	SD8	不明	不明		内:摺目(1単位7本) 外:ロクロナデ・糸切り高台・納軸	密	良	黒褐 10YR3/2	底の部	加工円盤に再利用
115	19-2	陶器 播鉢	B-B3	SD8	不明	不明		内:摺目(単位不明)・納軸 外:ロクロナデ・施軸	密	良	釉色:にぶい赤褐5YR5/4 素地:淡黄2.5Y8/3	小片	
116	19-3	陶器 播鉢	B-	SD8	不明	不明	底部 10.5	内:摺目(1単位11本)・納軸 外:ロクロナデ・糸切り高台・納軸	密	良	釉色:暗褐10YR3/2 素地:灰白2.5Y8/2	底径1/3	摺り目がかなりすり減っている
117	17-7	土師器 茶釜	B-A3	SD8	10	不明		内:工具ナデ・ヨコナデ 外:ハケメ・ヨコナデ	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	口径1/6	
118	18-5	土師器 茶釜	B-B2	SD8	11	不明		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	口径1/8	
119	17-5	土師器 羽釜	B-B3	SD8	不明	不明		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・ヨコナデ・貼り付けナデ	密	良	灰黄 2.5Y7/2	小片	小型羽釜 外面に煤付着
120	17-6	土師器 羽釜	B-A3	SD8	不明	不明		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・ヨコナデ・ハケメ・貼り付けナデ	やや粗	良	浅黄橙 10YR8/4	小片	
121	17-3	土師器 羽釜	B-A3	SD8	不明	不明		内:ナデ・ヨコナデ 外:ナデ・ヨコナデ・貼付けナデ	密	良	内:橙 7.5YR7/6 外:灰白 10YR8/2	小片	
122	17-2	土師器 鍋	B-	SD8	不明	不明		内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	密	良	浅黄橙 10YR8/4	小片	小型羽釜 外面に煤付着
123	17-1	土師器 鍋	B-	SD8	不明	不明		内:ヨコナデ 外:ハケメ・ヨコナデ	密	良	浅黄橙 7.5YR8/4	小片	小型鍋
124	14-5	土師器 鍋	B-B2	SD8	21	不明		内:工具ナデ・ヨコナデ 外:ハケメ・ヨコナデ	密	良	灰白 7.5YR8/2	口径1/8	小型鍋
125	14-6	土師器 鍋	B-A3	SD8	21	不明		内:工具ナデ・ヨコナデ 外:ハケメ・ナデ	やや粗	良	浅黄橙 7.5YR8/3	口径1/7	小型鍋
126	14-7	土師器 鍋	B-B2	SD8	不明	不明		内:工具ナデ・ヨコナデ 外:ハケメ・ヨコナデ	やや粗	良	内:浅黄橙 7.5YR8/4 外:にぶい橙 7.5YR7/3	小片	鉄鍋模倣品

第3表 出土遺物観察表(2)

報告 番号	登録 番号	器 種	地区	遺構	法量 (cm)			調整・技法上の特徴	胎土	焼成	色 調	残存度	備 考
					口径	器高	その他						
127	16-1	土師器 鍋	B-A3	SD8	不明	不明		内：ヨコハケ・オサエ・ヨコナデ・ケズリ 外：ハケメ・ヨコナデ・ケズリ	やや粗	良	灰褐 7.5YR5/2	小片	
128	15-1	土師器 鍋	B-B3	SD8	不明	不明		内：土具ナデ・ヨコナデ 外：ハケメ・ヨコナデ	やや粗	良	灰白 10YR8/2	口径1/4	
129	8-9	土製 土鉢	B-A2	SD8	径1.9	長4.3	穴径0.7	全面ナデ	密	良	灰白 2.5YR8/2	ほぼ完存	
130	16-2	土師器 鍋	B-A2	SD8	26	不明		内：土具ナデ・オサエ・ヨコナデ 外：ハケメ・ヨコナデ	密	良	にぶい橙 7.5YR5/3	口径5/8	半球形鍋
131	15-2	土師器 鍋	B-A3	SD8	34	不明		内：土具ナデ・ナデ・ヨコナデ 外：ハケメ・ヨコナデ	やや粗	良	灰白 10YR8/2	口径1/6	
132	9-4	土師器 皿A	B-D7	SD14	7.2	0.8		内：ナデ・オサエ 外：ナデ	密	良	灰白 7.5YR8/2	口径1/4	
133	8-1	土師器 皿B	B-D4	SD14	8.1	2.2		内：ナデ・ヨコナデ 外：ナデ・オサエ	密	良	黄橙 5YR8/3	完存	
134	33-2	土師器 皿A	B-I2	SD24	7.6	0.7		内：ナデ 外：ナデ・オサエ	密	良	浅黄橙 10YR8/3	完存	
135	24-5	土師器 皿C	B-K2	SD29	8.3	1.4		内：ナデ 外：ナデ・オサエ・ヨコナデ	密	良	黄橙 7.5YR8/3	口径7/8	
136	24-2	陶器 平碗	B-J2	SD29	不明	不明		内：ロクロナデ・灰軸 外：ロクロナデ・ロクロケズリ・灰軸	密	良	釉色：浅黄 5Y7/3 表地：場灰 10YR6/1	小片	
137	24-4	陶器 瓶(壺)	B-J2	SD29	不明	不明		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・糸切り底・鉄軸	密	良	釉色：にぶい黄褐 10YR4/3 表地：にぶい黄褐 10YR7/2	底径2/5	
138	24-6	土師器 鍋	B-J2	SD29	不明	不明		内：ナデ・ヨコナデ 外：ハケメ・ヨコナデ	密	良	浅黄橙 10YR8/3	小片	
139	9-2	青磁 碗	B-B4	SD10	不明	不明	高台径 3.6	内：ロクロナデ・施軸 外：ロクロナデ・削り出し高台・施軸	密	良	釉色：明緑色5G7/1 表地：灰白N8/	底部完存	
140	2-2	土師器 皿B	A-E7	SD5	6	1.2		内：ナデ 外：ナデ・オサエ	密	良	浅黄橙 7.5YR8/4	口径1/4	
141	2-4	土師器 皿C	A-F7	SD5	7.2	1		内：ナデ・ヨコナデ 外：ナデ・オサエ	密	良	浅黄橙 7.5YR8/4	口径1/8	
142	2-3	土師器 皿C	A-F7	SD5	7.6	1.2		内：ナデ・ヨコナデ 外：ナデ・オサエ・ヨコナデ	密	良	浅黄橙 7.5YR8/3	口径1/6	
143	2-5	土師器 皿C	A-E7	SD5	8.8	1.1		内：ナデ・ヨコナデ 外：ナデ・オサエ・ヨコナデ	密	良	浅黄橙 7.5YR8/4	口径1/6	
144	2-8	土師器 皿C	A-F7	SD5	不明	不明		内：ナデ 外：ナデ・オサエ	密	良	浅黄橙 7.5YR8/3	小片	
145	2-6	土師器 皿C	A-F7	SD5	不明	不明		内：ナデ・ヨコナデ 外：ナデ・オサエ	密	良	灰白 7.5YR8/2	小片	
146	2-7	土師器 皿D	A-F7	SD5	不明	不明		内：ナデ・ヨコナデ 外：ナデ・オサエ・ヨコナデ	密	良	灰白 7.5YR8/2	小片	
147	2-9	土師器 皿D	A-F7	SD5	不明	不明		内：ナデ・ヨコナデ 外：ナデ・オサエ・ヨコナデ	密	良	浅黄橙 7.5YR8/3	小片	
148	12-5	陶器 天目茶碗	B-E7	SD5	不明	不明	高台径 3.2	内：ロクロナデ・鉄軸 外：ロクロナデ・鉄軸・高台付近錆軸	やや粗	良	釉色：黒 表地：灰褐 5YR	高台径完存	
149	2-1	陶器 天目茶碗	A-G6	SD5	不明	不明	高台径 3.5	内：ロクロナデ・鉄軸 外：ロクロナデ・ケクロケズリ・鉄軸・高台付近錆軸	密	良	釉色：暗赤灰 10R4/1 表地：灰白 2.5Y8/2	高台径2/3	
150	12-1	陶器 平碗	B-L7	SD5	不明	不明	底径5.5	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・削り出し高台・灰軸	粗	良	釉色：浅黄 2.5Y7/3 表地：浅黄 2.5Y7/3	底径3/4	
151	12-3	陶器 天目茶碗	B-L7	SD5	不明	不明	底径4.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・削り出し高台・錆軸	やや粗	良	釉色：にぶい橙 7.5Y7/3 表地：にぶい橙 7.5Y7/3	底部完存	加工円盤として 再利用
152	12-6	陶器 香炉?	B-H7	SD5	不明	不明		内：ロクロナデ・鉄軸 外：ロクロナデ・鉄軸	やや粗	良	釉色：暗赤褐 5Y3/3 表地：浅黄橙 7.5YR8/3	小片	
153	6-1	陶器 花瓶	A-G7	SD5	不明	不明		内：ロクロナデ・灰軸 外：ロクロナデ・灰軸	密	良	釉色：オリーブ黄5YR6/3 表地：灰白 10Y7/1	小片	
154	12-2	陶器 鉢	B-K7	SD5	不明	不明		内：ロクロナデ・鉄軸 外：ロクロナデ・鉄軸	密	良	釉色：褐 7.5YR4/3 表地：灰黄 2.5Y6/2	小片	
155	11-5	陶器 壺	B-D7	SD5	12	不明		内：ナデ 外：ロクロナデ・ナデ・錆軸	やや粗	良	内：灰褐 7.5YR6/2 外：赤褐 10YR4/3	口径1/5	外面にヘラ記号
156	12-4	陶器 播鉢	B-F7	SD5	不明	不明	底径10.6	内：摺目(1単位10本程度) 外：ロクロナデ・糸切り高台・錆軸	やや粗	良	釉色：にぶい赤褐5YR4/3 表地：にぶい赤褐10YR7/2	口径1/4	摺り目がかなり すり減っている
157	13-1	陶器 甕	B-J7	SD5	不明	不明	頸部径17	内：ナデ 外：タタキ後ナデ・ヨコナデ	やや粗	良	灰：5Y5/1	口径1/4	
158	5-5	陶器 控鉢	A-F7	SD5	不明	不明		内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・底部に砂が付着	粗	良	褐：10YR4/6	小片	
159	5-4	陶器 播鉢	A-E7	SD5	不明	不明		内：ロクロナデ・錆軸 外：ロクロナデ・錆軸	やや粗	良	釉色：褐 7.5YR4/4 表地：浅黄橙 7.5YR8/4	小片	
160	113	土師器 茶釜	B-H7	SD5	13	不明		内：ナデ・ヨコナデ 外：ナデ・ヨコナデ	密	良	にぶい橙 7.5Y7/3	口径1/7	
161	11-6	土師器 茶釜	B-H7	SD5	9.8	不明		内：ナデ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・ハケメ	密	良	にぶい橙 10YR6/3	口径1/7	
162	3-1	土師器 鍋	A-F7	SD5	19	不明		内：ナデ・オサエ・ヨコナデ 外：ナデ・オサエ・ヨコナデ	密	良	浅黄橙 7.5YR8/4	口径1/5	小型鍋
163	5-2	土師器 鍋	A-F7	SD5	20	不明		内：ハケメ・ヨコナデ・ケズリ 外：ハケメ・ヨコナデ・オサエ・ケズリ	やや粗	良	浅黄橙 7.5YR8/3	口径1/4	
164	11-2	土師器 鍋	B-D7	SD5	29	不明		内：ナデ・ヨコナデ 外：ハケメ・ヨコナデ・ハケメ	密	良	にぶい橙 7.5YR7/3	口径1/7	
165	4-3	土師器 鍋	A-F7	SD5	33	不明		内：ナデ・ヨコナデ 外：ハケメ・ヨコナデ	やや粗	良	浅黄橙 10YR8/3	口径1/8	
166	11-1	土師器 羽釜	B-I7	SD5	30	不明		内：ナデ・ヨコナデ 外：ナデ・ヨコナデ・ハケメ	砂粒多	良	浅黄橙 10YR8/3	口径1/4	
167	36-1	石製品 臼	B-F7	SD5	-	-	径30 穴2.5	砂岩を加工している	-	-	-	1/2欠損	
168	37-1	石製品 石五輪火・水輪	B-I7	SD5	-	-	水輪9.5	砂岩を加工している	-	-	-	-	
169	37-2	石製品 石五輪火	B-L7	SD5	-	-	風輪8~9	砂岩を加工している	-	-	-	-	
170	38-3	鉄製品 不明品	B-C3	SK18	-	-	-	-	-	-	-	先端部のみ	
171	8-4	土師器 皿A	B-C4	pit2	7.1	0.9		内：ナデ 外：ナデ・オサエ	密	良	浅黄橙 7.5YR8/3	口径2/3	
172	10-1	石製品 砥石	B-B5	pit1	-	-	残存長 10.4	長方形で4方に摺面をもつ	-	-	-	一部欠損	
173	33-1	土師器 皿B	B-K3	pit3	8.5	1.8		内：ナデ・ヨコナデ 外：ナデ・オサエ	密	良	灰白 10YR8/2	口径1/2	
174	33-3	土師器 皿B	B-K3	pit3	8.1	1.9		内：ナデ・ヨコナデ 外：ナデ・オサエ	密	良	浅黄橙 7.5YR8/3	口径1/2	
175	33-7	陶器 線軸小皿	B-L3	pit4	10	2.2		内：ロクロナデ・口縁付近灰軸 外：ロクロナデ・ロクロケズリ・糸切り底・口縁付近灰軸	密	良	灰白 10YR8/2	口径1/2	内面底がよくすり減っている
176	34-7	陶器 小皿	B-N2	試掘坑	10	2.5	高台径 3.7	内：ロクロナデ・施軸 外：ロクロナデ・削り出し高台・施軸	密	良	灰白 10YR8/2	高台径1/4	
177	34-5	陶器 線軸小皿	B-N2	試掘坑	不明	不明	高台径 6.2	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・削り出し高台・鉄軸	密	良	灰白 7.5YR8/2	高台径1/8	底面に墨書底跡
178	34-4	土師器 小碗	B	包含層	不明	不明	高台径 6	内：ナデ 外：ナデ・オサエ・高台貼り付け	密	良	浅黄橙 7.5YR8/3	口径1/8	
179	33-5	陶器 線軸小皿	B-J6	包含層	不明	不明	高台径 4.8	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・削り出し高台・鉄軸	密	良	釉色：黒褐 7.5YR2/2 表地：灰白 2.5Y8/2	高台径3/5	内面底がよくすり減っている
180	33-6	陶器 線軸小皿	B-J6	包含層	9.6	1.8		内：ロクロナデ・口縁付近灰軸 外：ロクロナデ・ロクロケズリ・糸切り底・口縁付近灰軸	密	良	灰白 10YR8/2	口径1/8	内面底がよくすり減っている
181	34-1	陶器 山茶碗	B-J6	包含層	不明	不明	高台径 8.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・削り出し高台	やや粗	良	灰黄 2.5Y7/2	高台径3/5	内面底がよくすり減っている
182	8-3	陶器 天目茶碗	B-A5	包含層	11	6	高台径 3.8	内：ロクロナデ・鉄軸 外：ロクロナデ・ロクロケズリ・鉄軸・高台付近錆軸	密	良	釉色：赤灰 2.5Y5/1 表地：灰白 7.5Y8/2	口径1/3	
183	8-5	陶器 天目茶碗	B	包含層	11	不明		内：ロクロナデ・鉄軸 外：ロクロナデ・ロクロケズリ・鉄軸・高台付近錆軸	密	良	釉色：にぶい褐 7.5YR6/3 表地：灰白 10YR8/2	口径1/4	
184	9-1	青磁 碗	B	包含層	不明	不明	高台径 6.1	内：ロクロナデ・施軸 外：ロクロナデ・削り出し高台・施軸	密	良	釉色：緑 表地：灰白 10Y8/1	底部完存	
185	35-1	土師器 茶釜	B-B3	包含層	26	不明		内：ナデ・ヨコナデ 外：ヨコナデ・ハケメ	密	良	浅黄橙 7.5YR8/3	口径1/4	

第3表 出土遺物観察表(3)

## V 結 語

今回の調査では、旧石器時代の遺物及び中世の遺物・遺構が確認できた。以下それぞれについて若干の検討をし、まとめに変えたい。

### 1 旧石器時代

B地区の北半を中心に剥片や石核が出土した。石材はチャートを主原料としており砂岩や頁岩も少量混ざる。宮川の支流の川原にはチャート原石が散布しており、この石材の選択は宮川流域では一般的な傾向といえる。

### 2 鎌倉から室町時代の遺構

出土遺物の検討からこの時代の遺構は大きく次の4期に分けることができる。

#### (1) I期 (13世紀前半)

土師器は伊藤編年第1段階b型式に相当する。遺構はA地区で井戸と思われる土坑SK3が1基のみ確認された。遺物も比較的多量に出土しており、調査区外に住居があった可能性が高い。

#### (2) II期 (15世紀前半)

陶器は古瀬戸編年後Ⅲ期、土師器は伊藤編年第3段階b型式のものが出土している。掘立柱建物2棟(SB41・42)、それに付属すると考えられる土坑(SK20・21・15)、井戸(SE22)が確認された。SB41・42出土遺物はⅢ期に相当するものであるが柱痕跡出土でもあり、SK20・21との関係からこの時期に含めた。これらの遺構の範囲は1軒の屋敷地を示していると考えられる。

#### (3) III期 (15世紀後半)

陶器は古瀬戸編年後Ⅳ期から大窯編年1期、土師器は伊藤編年第4段階c型式のものを中心とする。早い段階でSD8、SE34、次いでSK12・31・32、SD5がつくられた。SK32は墓の可能性もある。SK31は土器が不規則に入っていたことから廃棄土坑であった可能性もあり、またSE34からは使用痕跡のある鍋が多量に確認されている。付近に居住地があった可能性があるが、検出はできなかった。SD5は両端が南に屈曲しており、その長さは63mと

屋敷地の区画を表している可能性がある。SD8ともほぼ直行している。この溝からの出土遺物には瀬戸美濃産の花瓶や香炉と思われる小片もあり、区画内に居住していた人の階層がうかがわれる。

#### (4) IV期 (16世紀後半～17世紀初頭)

陶器は大窯編年4期、土師器は伊藤編年第4段階e・f型式を中心とする。この時期には不定形で土器も多量に出土しており、廃棄土坑と考えられるSK25が掘削される。SD5の廃絶時期もこの頃であろうか。

### 3 IV期の遺物について

今回の調査区から出土した土器は、土師器はほぼ南伊勢系の範疇に納まるもので、陶器は瀬戸・美濃産および常滑産のものと考えられる。

#### (1) 南伊勢系土師器について

器種は供膳具に皿・小椀が、煮沸具に鍋・茶釜・羽釜がみられる。皿はA系統のものとB～D系統のものがセット関係をなしていたと考えられる。小椀は2点のみ確認できた。鍋は中型と小型の2種類がみられる。小型鍋の口縁部は折り返したものが多く、一部に中型と同様に端部をつまみ上げたものもある。この他、半球形鍋も一般的に見受けられる。また、数量的には少ないが金属模倣鍋や口縁端部折り返しのない鍋もあり、バラエティーに富んでいる。茶釜は口縁の直径・長さから2～3種類に分類できよう。羽釜には中型と小型があり中型のものは口縁端部を外側に折り返している。小型のものは端部を方形に納めたものが主流を占める。

#### (2) 陶器・磁器について

供膳具は縁釉小皿・灰釉端反皿(時期によっては志野丸皿)、天目茶椀、平椀、折縁深皿が確認された。貯蔵具には瓶・壺・甕、調理具には捏鉢・摺鉢がある。これらの器種はほとんどの遺構に共通してみられ、当地で安定した供給が受けられていたことがうかがえる。





SK3



SE34 遺物出土状況



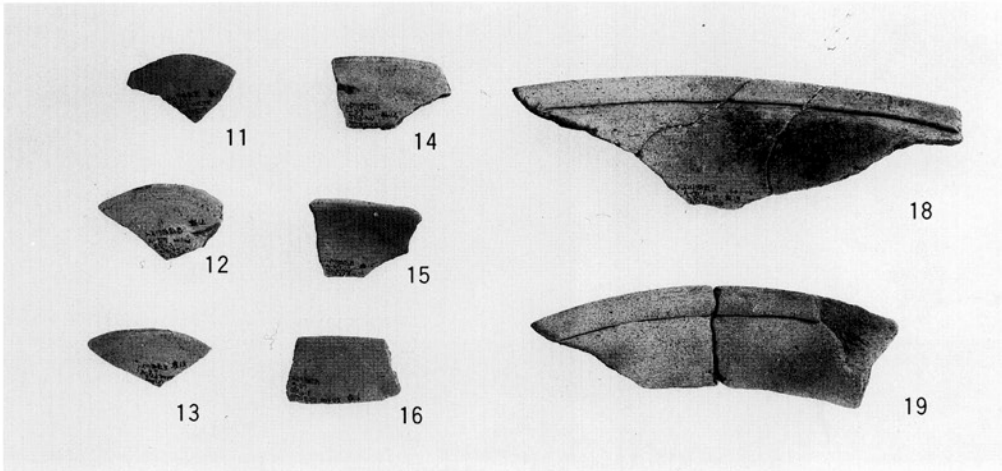
SE22



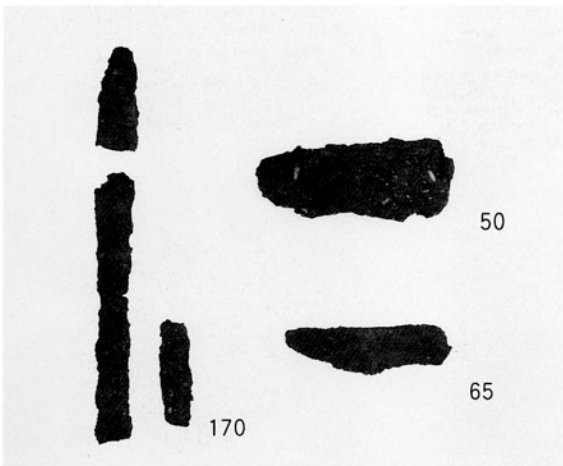
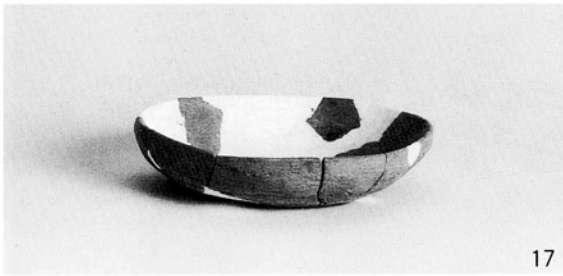
SB 5 石の集中地点



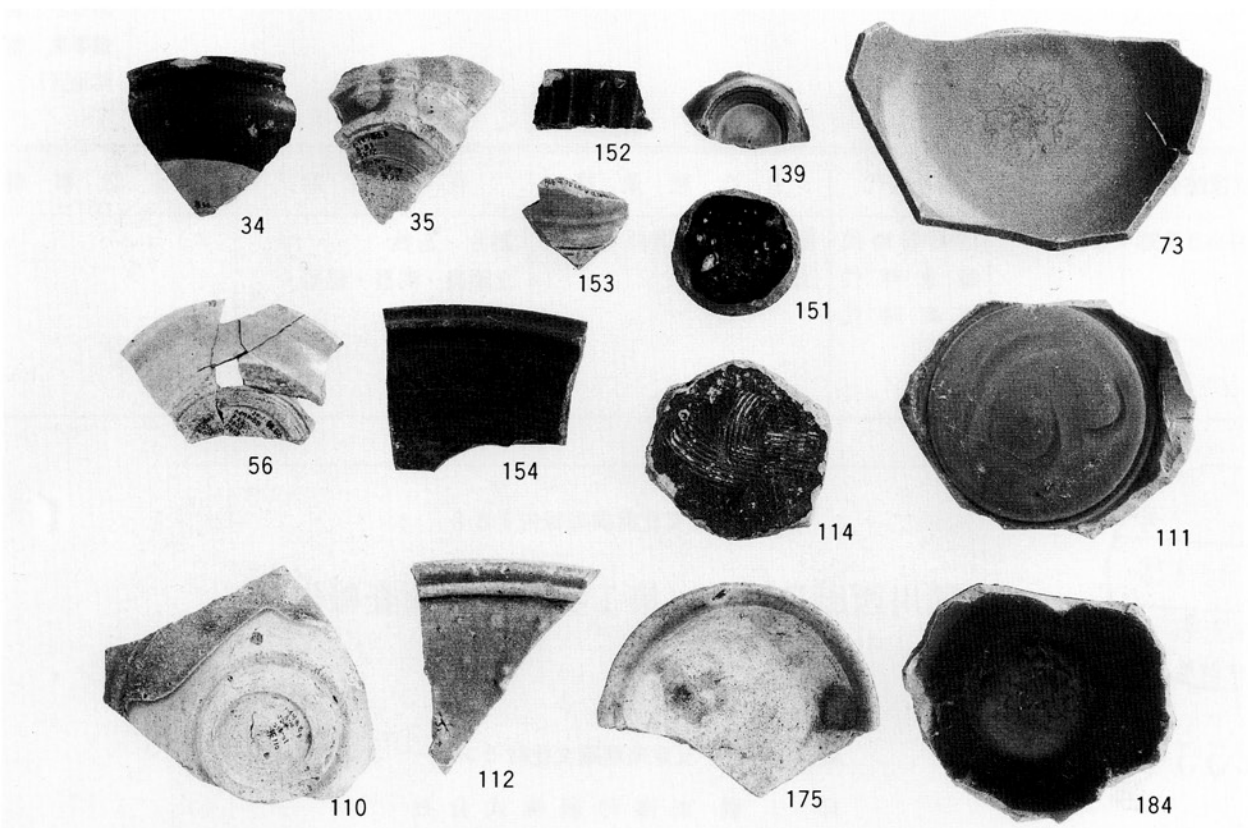
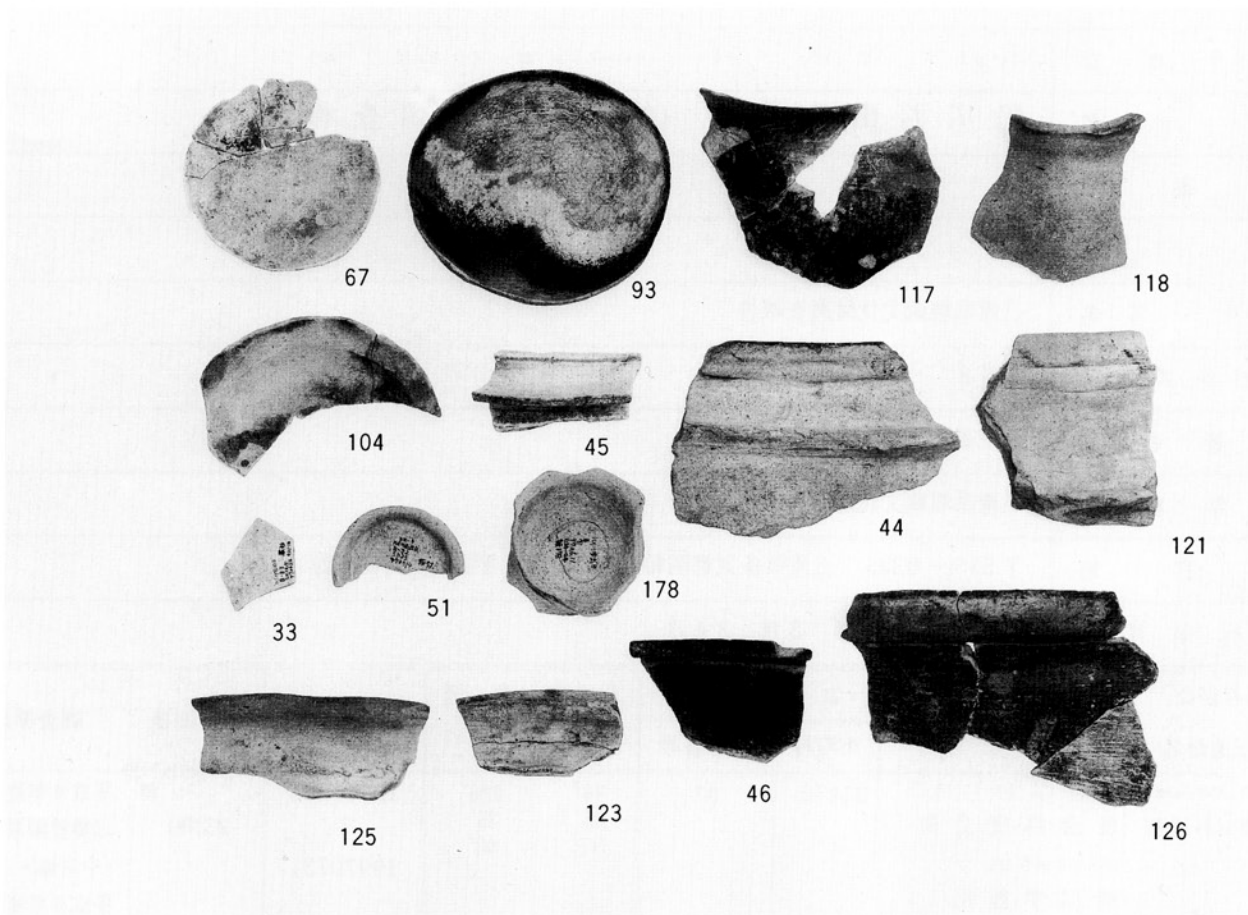
SB41・42、SK15、SK20・21



鎌倉時代の遺物



室町時代中葉以降の遺物



室町時代中葉以降の遺物（上段：土師器、下断：陶磁器）

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	はいかわ にし で びい い せき (だいいちじ) ほっ くつ ちよう さ ほう こく
書 名	鯉川西出B遺跡 (第1次) 発掘調査報告
副 書 名	
巻 次	
シ リ ー ズ 名	三重県埋蔵文化財調査報告
シ リ ー ズ 番 号	168
編 著 者 名	西村美幸・山本義浩
編 集 機 関	三重県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL 0596 (52) 1732
発 行 年 月 日	西暦 1998年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はいかわにしでびいせき 鯉川西出B遺跡	わたらいぐん わたらいちよう 度会郡度会町 はいかわあぎにしで 鯉川字西出	24470	91	34° 25' 37"	136° 35' 00"	19970506 ) 19970731	m <sup>2</sup> 2,200	平成9年度県営 ほ場整備事業 (中川地区) 平成9年度県営 ふるさと農道整 備事業(度会北 部地区)

所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 憩 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
鯉川西出B遺跡	集落跡	旧石器時代 鎌倉時代 室町時代	掘立柱建物・井戸・溝・ 土坑	剥片・石核 土師器・陶器・磁器・ 鉄製品	

平成10(1998)年3月に刊行されたものをもとに  
平成19(2007)年8月にデジタル化しました。

三重県埋蔵文化財調査報告168

## 鯉川西出B遺跡 (第1次) 発掘調査報告

1998. 3

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター

印 刷 東海印刷株式会社